I·O DATA

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

HDL-ZWTCR2 シリーズ　すぐに取り出せる場所に保管してください

LAN DISK　管理マニュアル

B-MANU202082-02

もくじ

注意事項など
本製品を使用する際の基本的な情報や注意事項です。
必ずお読みください。

はじめに

初期設定
本製品の設置方法などです。
運用にあたって必要最小限の設定になります。

初期設定

本製品を運用する際の詳細設定
初期設定の後に必要に応じてご確認ください。

詳細設定

その他の情報
運用後に必要になる情報です。
必要に応じてご確認ください。

資料

アフターサービス

はじめに

安全のために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

● 警告および注意表示

表示	意味
⚠危険	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険が生じます。
⚠警告	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことがあります。
⚠注意	この表示の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

● 絵記号の意味

記号	意味
	禁止
	指示を守る

⚠ 危険

本製品を修理・改造・分解しない

火災や感電、破裂、やけど、動作不良の原因になります。

⚠ 警告

雷が鳴り出したら、本製品や電源コードには触れない

感電の原因となります。

本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使わない

水や洗剤などが本製品にかかると、隙間から浸み込み、火災・感電の原因になります。

・お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。
・水の入ったもの（コップ、花びんなど）を上に置かないでください。
・掃除は必ず乾いた布でおこなってください。
・万一、本製品がぬれてしまった場合は、絶対に使用しないでください。

本製品の小さな部品を乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込み、窒息や胃などのへ障害の原因になります。
万一、飲み込んだと思われる場合は、ただちに医師にご相談ください。

本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない

火災の原因となります。

故障や異常のまま、つながない

本製品に故障や異常がある場合は、必ず接続している機器から取り外してください。
そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

決められた電源で使用する

所定以外の電源で、本製品を使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動は、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行う

電源プラグを抜かずに行うと、感電の原因になります。

煙がでたり、変なにおいや音がしたら、すぐに使うのを止める

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告 ●電源（コード・プラグ）について

電源コードは、添付品または指定品のもの以外を使用しない

電源コードから発煙したり火災の原因になります。

AC100V（50/60Hz）以外のコンセントに接続しない

発熱、火災の恐れがあります。

電源コードにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わない

電源コードがよじれた状態や折り曲げた状態で使用しないでください。
電源コードの芯線 (電気の流れるところ) が断線したり、ショートし、火災・感電の原因になります。

ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因になります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると傷が付き、火災や感電の原因になります。

熱器具のそばに配線しない

電源コード被覆が破れ、火災や感電、やけどの原因になります。

添付の電源コードは、他の機器に接続しない

添付の電源コードおよび AC アダプターは本機専用です。他の機器に取り付けると、火災や感電の原因となることがあります。

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントから電源プラグを抜く

そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

コンセントまわりは定期的に掃除する

長期間電源プラグを差し込んだままのコンセントでは、つもったホコリが湿気などの影響を受けて、火災の原因になります。（トラッキング現象）トラッキング現象防止のため、定期的に電源プラグを抜いて乾いた布で電源プラグをふき掃除してください。

テーブルタップを使用する時は定格容量以内で使用する、たこ足配線はしない

テーブルタップの定格容量（「1500W」などの記載）を超えて使用すると、テーブルタップが過熱し、火災の原因になります。

じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・保湿性の高いものの近くで使用しない

火災の原因になります。

⚠ 注意

本製品を踏まない

破損し、ケガの原因となります。特に、小さなお子様にはご注意ください。

取り付け、取り外しの際は手袋をつける

ハンダ付けの跡やエッジ部分などがとがっている場合があります。誤って触れると、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意 ●電源（コード・プラグ）について

人が通行するような場所に配線しない

足を引っ掛けると、けがの原因になります。

使用上のご注意

定期的にバックアップしてください

本製品は精密機器です。突然の故障等の理由によってデータが消失する場合があります。万一に備え、本製品内に保存された重要なデータについては、必ず定期的に「バックアップ」してください。

本製品または接続製品の保存データの毀損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いません。また、弊社が記録内容の修復・復元・複製などをすることもできません。なお、何らかの原因で本製品にデータ保存ができなかった場合、いかなる理由であっても弊社は一切その責任を負いかねます。

バックアップとは
本製品に保存されたデータを守るために、別の記憶媒体（HDD・BD・DVD など）にデータの複製を作成することです。（データを移動させることは「バックアップ」ではありません。同じデータが 2 か所にあることを「バックアップ」と言います。）
万一、故障や人為的なミスなどで、一方のデータが失われても、残った方のデータを使えますので安心です。不測の事態に備えるために、必ずバックアップを行ってください。

最新のフォームウェアをご利用ください

本製品のハードウェア保証適用のために、ファームウェアまたはソフトウェアは常に弊社が提供する最新版にアップデートしてご利用ください。最新版でない場合、保証適用を受けられない場合もあります。

お手入れについて

●本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。
●洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてご使用ください。
●ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
●市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因になります。

本製品を廃棄や譲渡などされる際のご注意

●ハードディスクに記録されたデータは、OS 上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性もありますので、情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめします。
※ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくハードディスクを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。
●本製品を廃棄する際は、地方自治体の条例にしたがってください。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

その他のご注意

■動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。

■増設用ハードディスクをはじめて本製品に接続して使用する場合は、必要に応じてフォーマットを行います。

■本製品起動処理中は本製品の電源を切ることはできません。

■ファイルコピー中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。本製品や増設用ハードディスクのアクセスランプを確認の上、電源を切ってください。

■本製品を DHCP サーバが存在するネットワークに接続しても、正常に IP アドレスを取得できない場合があります。その場合は、本製品の IP アドレスを固定に設定してご利用ください。

■本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。
ルータを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。

■本製品設定中は本製品の電源を切らないでください。

■動作確認済み以外のソフトウェアは、インストールおよび利用しないでください。
本製品の安定運用に影響を及ぼす恐れがあります。
動作確認済みのソフトウェアは以下の弊社ホームページをご確認ください。
http://www.iodata.jp/pio/hdd/landisk_soft

■本製品を以下のような機能を設定して、利用することはできません。
●ファイヤウォール、VPN、Web キャッシュの役割
●メールサーバー
●認証サーバー (ドメインコントローラー等)
●ネットワーク・インフラストラクチャ・サービス（DNS、WINS 等)
●ネットワーク負荷分散
●クラスタリング

■本製品に登録可能なユーザー数は無制限です。

■本製品は「休止」「スリープ」には対応しておりません。

箱の中には

□本製品（1台）
□電源コード（1本）
□ LAN ケーブル（2本）
□ロックキー（2個）
□サポート DVD-ROM（1 枚）
☑管理マニュアル（本書：1冊）
□ラックマウントレールの取り付け方法（1 枚）
□ラックマウントレール（1 式）

■ユーザー登録について
シリアル番号 (S/N) は、本製品に貼られているシールに「ABC0987654ZX」のように印字してあります。シリアル番号 (S/N) は、ユーザー登録の際に必要です。
http://www.iodata.jp/regist/
▼こちらにシリアル番号 (S/N) をご記入ください。

動作環境

本製品を使用できる環境は以下の通りです。 お使いの機種や環境を再度ご確認ください。

設定に必要な環境

本製品の設定を行うには、以下のどちらかの環境が必要です。

環境① Windows リモートデスクトップ接続可能なパソコン
（Windows® 8、Windows® 7、Windows Vista®、Windows® XP）

環境② VGA コネクターを搭載したパソコン用ディスプレイ、USB 接続のキーボード、USB 接続のマウス（環境①が無い場合）

対応機種

LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP 通信が正常に動作する Windows パソコン、Mac

対応 OS

Windows® 8(32/64 ビット版)、Windows® 7(32/64 ビット版)、Windows Vista®(32/64 ビット版)、Windows® XP、Windows Server® 2012 ※1、Windows Server® 2008/ R2 ※2、Windows Server® 2003 SP1/ R2 ※3、Mac OS 10.5 以降※4

※ 1 フルインストールのみ対応しています。
※ 2 Standard/Enterprise のみ対応しています。Server Core モードには対応していません。
※ 3 Standard(32 ビット版）/Enterprise（32 ビット版）のみ対応しています。
※ 4 SMB 接続のみ対応です。Time Machine 機能は利用できません。

ご注意

●本製品および別売オプション HDD「HDLZ-OPR シリーズ」以外のご利用はサポート対応外となります。
●本製品の設定には、Windows のリモートデスクトップ機能を利用しています。Mac OS など他のパソコンからの設定はおこなえません。上記「本製品の設定に必要な環境」の「環境②」をご用意ください。
●本製品は、RAID 構成により、ハードディスクの故障によるデータの破損およびシステムダウンを防ぐことはできますが、ウィルスの感染やユーザーの操作ミス、使用中の停電などのトラブルに起因するデータ損失を防ぐことはできません。USB 接続した HDD などへのバックアップも留意してください。

対応外付けハードディスク

最新情報は弊社ホームページ http://www.iodata.jp/product/hdd/taiou/landisk_hdd.htm をご確認ください。

対応 UPS

最新情報は弊社ホームページ http://www.iodata.jp/product/hdd/taiou/landisk_ups.htm をご確認ください。
※ USB 3.0 ポートは対応しておりません。USB 2.0 ポートに接続してご利用ください。

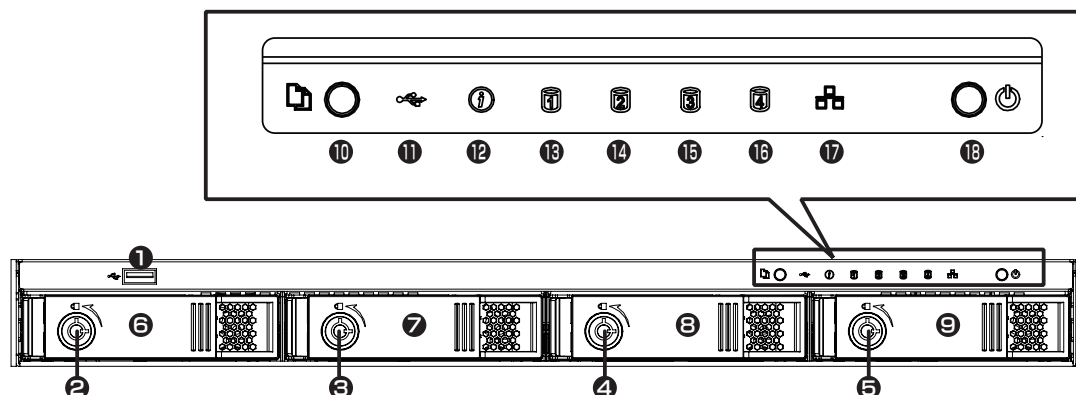
オプション品について

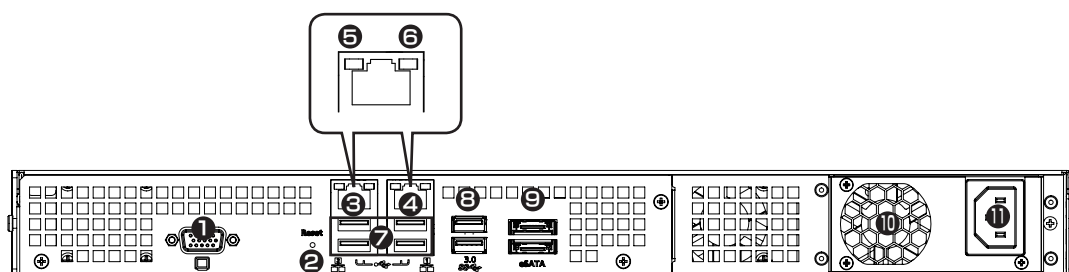
弊社製 HDLZ-OPR シリーズ
※詳細な情報は、以下の弊社ホームページをご確認ください。
http://www.iodata.jp/product/hdd/taiou/nas_hdd.htm

ご注意

●オプション品のカートリッジには、システムはインストールされていません。
●本製品の容量をあとから増やすことはできません。

各部の名称

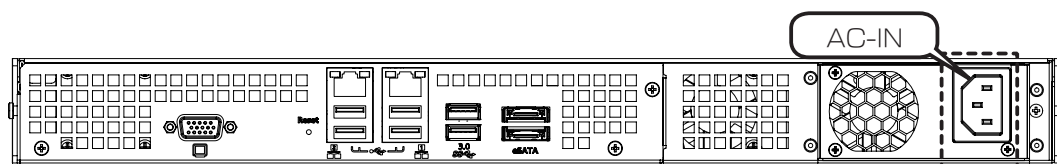
前面

① USB ポート 1		増設用 USB ポートです。
②カートリッジ固定ロック 1 ③カートリッジ固定ロック 2 ④カートリッジ固定ロック 3 ⑤カートリッジ固定ロック 4		HDD カートリッジをロック / アンロックします。
⑥ HDD1 ⑦ HDD2 ⑧ HDD3 ⑨ HDD4		HDD カートリッジを接続します。 脱着レバーは、HDD カートリッジを取り出す際に利用します。
⑩ Func ボタン		登録したコマンドを実行します。継続してブザー音が鳴っている場合、Func ボタンを押すと、ブザー音を一時的に止めることができます。
⑪ USB ランプ	青点灯	USB デバイス認識時
	消灯	USB デバイス未接続時
⑫ STATUS ランプ		本製品の状態を示します。 詳しくは、【ランプの状態】(74 ページ)をご覧ください。
⑬ HDD1 ランプ ⑭ HDD2 ランプ ⑮ HDD3 ランプ ⑯ HDD4 ランプ	緑点灯	HDD 正常認識時
	緑点滅	HDD アクセス時
	赤点灯	HDD エラー時
	消灯	HDD 未接続時
⑰ LAN ランプ	橙点滅	LAN1/LAN2 アクセス時
	消灯	LAN1/LAN2 未接続時
⑱電源ボタン		短押し(1 秒程度)→本製品の電源を ON/OFF します。 ※電源 ON の状態で 3 秒以上押し続けると強制電源 OFF になります。 　3 秒以上電源ボタンを押し続けないでください。

背面

① VGA コネクター		ディスプレイを接続します。
② Reset スイッチ		使用しません。
③ LAN ポート1		添付の LAN コードを接続します。
④ LAN ポート2		添付の LAN コードを接続します。
⑤ ACT/LINK ランプ	橙点灯	LINK 中
	橙点滅	データを送受信中
	消灯	未接続
⑥ 1000/100/10 ランプ	緑点灯	1000BASE-T で接続中
	赤点灯	100BASE-TX で接続中
	消灯	未接続、または 10BASE-T で接続中
⑦ USB ポート 2 ～ 5		増設用ハードディスクなどを接続します。
⑧ USB 3.0 ポート1、2		増設用ハードディスクなどを接続します。
⑨ eSATA ポート1、2		増設用ハードディスクなどを接続します。
⑩ファン		冷却用ファンです。ふさがないでください。
⑪ AC-IN		添付の電源コードを接続します。

初期設定

セットアップする

電源コード を取り付ける

添付の電源コードを背面の [AC-IN] に接続します。

設定方法を選ぶ

本製品の設定は、Windows のリモートデスクトップを使用します。また、DHCP サーバーの有無により手順が異なります。ご利用の環境をご確認の上、該当する手順をご覧ください。

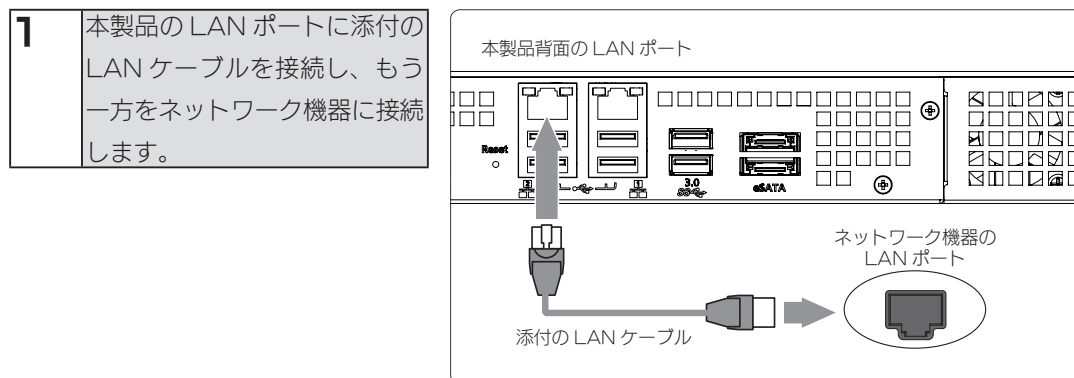
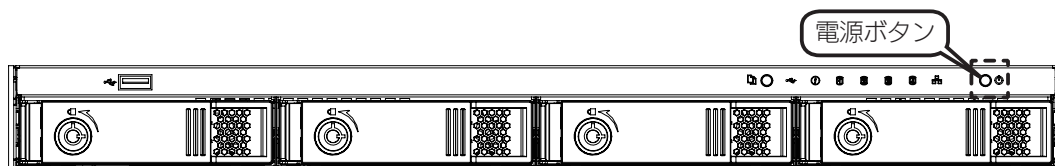
Windows XP 以降のパソコンと DHCP サーバーがある場合
　→ 【設定方法①】（12 ページ）

Windows XP 以降のパソコンがあり、DHCP サーバーがない場合
　→ 【設定方法②】（14 ページ）

ネットワークを利用せずにセットアップを行う場合
　→ 【設定方法③】（17 ページ）

設定方法①

Windows XP 以降のパソコンと DHCP サーバーがある場合の設定手順です。

ステップ１　ネットワークにつなぐ

1	本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をネットワーク機器に接続します。

ステップ２　電源を入れる

1	本製品の電源コードをコンセントに接続します。

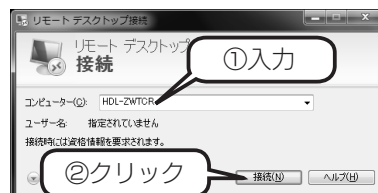
2	本製品前面の電源ボタンを押します。

ご注意

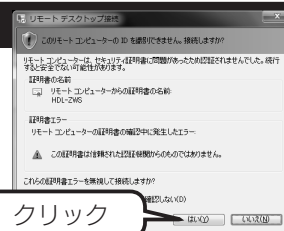
- ●動作中にシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】（36 ページ）をご覧ください。
- ●必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

ステップ３　本製品にアクセスする

1	[スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [リモートデスクトップ接続] をクリックします。

2	[コンピューター] で本製品のコンピューター名※を入力し、[接続] ボタンをクリックします。 ※出荷時設定では「HDL-ZWTCR」を入力します。

3	ログオン画面が開きますので、[別のアカウントを使用] を選択し、以下の [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] ボタンをクリックします。 　ユーザー名：Administrator 　パスワード：admin 出荷時パスワードは「admin」です。 Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。

ご注意

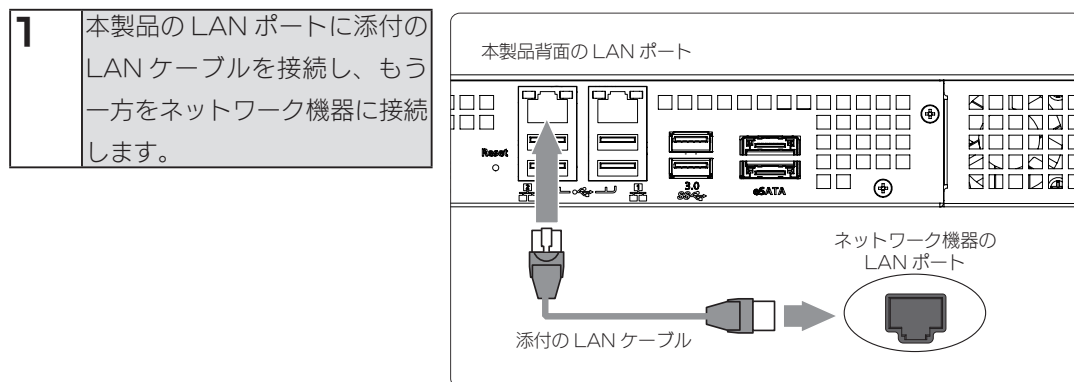
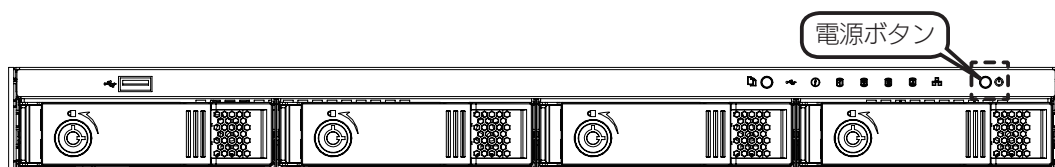
●右のような画面が表示された場合は [はい] ボタンをクリックしてください。

4	ログオンが成功すると、本製品搭載 OS Windows Storage Server 2008 R2 の初期画面が開きます。この画面にて必要な設定が行えます。

以上で、セットアップは完了です。

次に【ユーザーを作成する】（25 ページ）へお進みください。

設定方法②

Windows XP 以降のパソコンがあり、DHCP サーバーがない場合の設定手順

ステップ１　ネットワークにつなぐ

1	本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をネットワーク機器に接続します。

ステップ２　電源を入れる

1	本製品の電源コードをコンセントに接続します。

2	本製品前面の電源ボタンを押します。

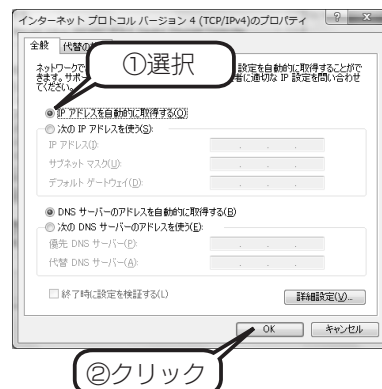
ご注意

●動作中にシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】（36 ページ）をご覧ください。

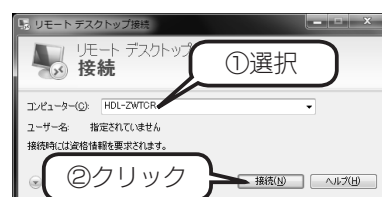
●必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

ステップ３　設定用パソコンの IP アドレスを確認、設定する

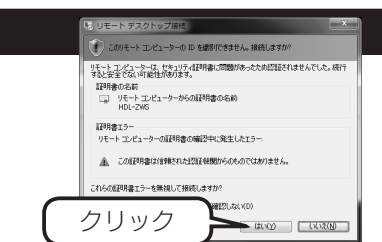
1　現在の設定用パソコンの IP アドレス等を確認、メモします。
後で、現在の IP アドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。

2　設定用パソコンの IP アドレスを一時的に [IP アドレスを自動的に取得する] に設定し、[OK] ボタンをクリックします。

ステップ4　本製品の IP アドレスを設定する

1　[スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [リモートデスクトップ接続] をクリックします。

2　[コンピューター] で本製品を選択し、[接続] ボタンをクリックします。

3　ログオン画面が開きますので、[別のアカウントを使用] を選択し、以下の [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
　ユーザー名：Administrator
　パスワード：admin
出荷時パスワードは「admin」です。
Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。

ご注意

●右のような画面が表示された場合は [はい] ボタンをクリックしてください。

4	ログオンが成功すると、本製品搭載 OS Windows Storage Server 2008 R2 の初期画面が開きます。この画面にて必要な設定が行えます。

5	リモートデスクトップから、本製品の IP アドレスを【ステップ3】でメモした IP アドレスを参考にネットワークに適した値に変更します

6	IP アドレス変更後は、通信ができなくなるため、いったんリモートデスクトップ画面を閉じます。

ステップ5　設定用パソコンの IP アドレスを元に戻す

1	本製品から設定用パソコンを取り外します。

2	設定用パソコンの IP アドレスを元に戻します。 （設定用パソコンをネットワークに接続する場合は、変更した IP アドレスを元に戻す必要があります。メモした値に戻してください。）

以上で、セットアップは完了です。

次に【ユーザーを作成する】（25 ページ）へお進みください。

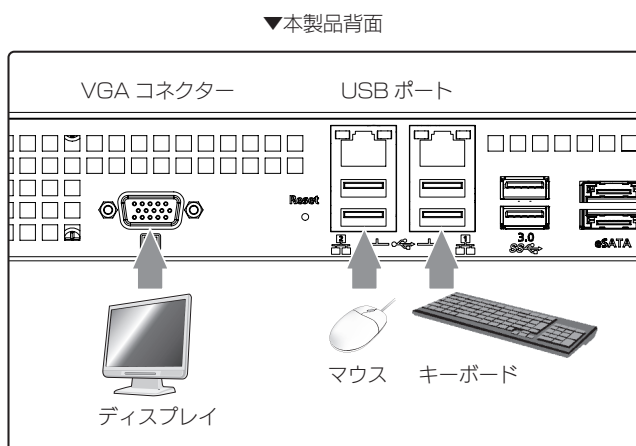
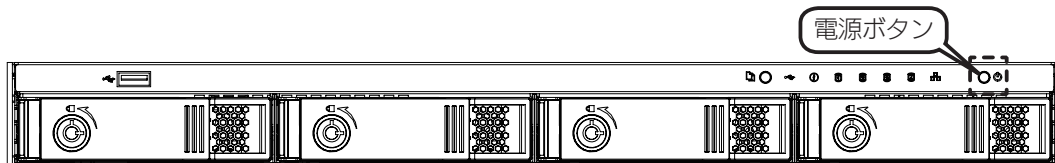
設定方法③

ネットワークを利用せずにセットアップを行う場合の設定方法です。

ステップ1　本製品にディスプレイ、キーボード、マウスをつなぐ

1	本製品の VGA コネクターにパソコン用のディスプレイを接続します。

2	本製品の USB ポートに USB 接続のキーボードを接続します。

3	本製品の USB ポートに USB 接続のマウスを接続します。

▼本製品背面

ステップ2　電源を入れる

1	本製品の電源コードをコンセントに接続します。

2	本製品前面の電源ボタンを押します。

電源ボタン

ご注意

●動作中にシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】（36 ページ）をご覧ください。

ステップ 3　ログオンする

1	本製品が起動したら、キーボードの [Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを押します。

2	[パスワード] に「admin」と入力し、[→] ボタンをクリックします。 出荷時パスワードは「admin」です。 Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。

3	ログオンが成功すると、本製品搭載 OS Windows Storage Server 2008 R2 の初期画面が開きます。この画面にて必要な設定が行えます。

以上で、セットアップは完了です。
次に【NarSuS 登録をする】（19 ページ）へお進みください。

NarSuS 登録をする

NarSuS（ナーサス）とは?

NarSuS（ナーサス）はインターネットを介したクラウドサービスで、対応 NAS（以降 LAN DISK）の稼働状態を把握し、安定運用を支援します。

● NarSuS の仕組み
LAN DISK からクラウド上の NarSuS データセンターに、稼働状態が自動送信されます。NarSuS はそれを受けて各種サービスを提供いたします。

● NarSuS の各種サービス

・イベントログの照会
RAID 構築状態やバックアップ設定などのシステム情報、ハードウェアの異常やスケジュール動作の完了などのイベント情報を表示します。

・動作状況をグラフ表示
LAN DISK の温度、FAN の回転数、利用容量、CPU 負荷をグラフで表示します。

・トラブル時の対処方法を表示
万が一の障害時には、管理画面に対処法が表示されます。表示に従って操作を進めれば、RAID 再構築や HDD 交換など、どなたでも迷わず対応を進めることが可能です。

●セキュリティへの配慮

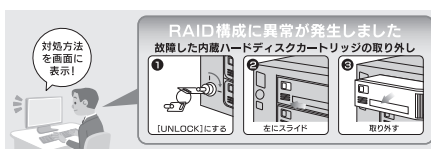
・通信は LAN DISK から NarSuS データセンターへの一方通行であり、NarSuS データセンターから LAN DISK に接続いたしません。
LAN DISK から送信するデータは LAN DISK の稼働情報であり、LAN DISK 内のユーザーデータは一切送信いたしません。

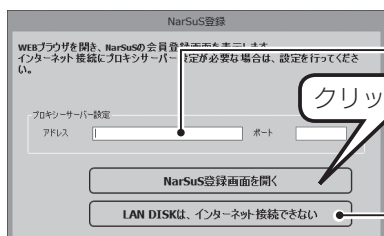
・NarSuS の通信経路は HTTPS を使って暗号化されております。

・データセンターは国内のデータセンター専用施設に設置されており、情報セキュリティに十分な配慮を行っています。

●本機能は、IPv4 ネットワークでのみ使用できます。

● Internet Explorer でご利用の場合、あらかじめ "https://www.narsus.jp" を [インターネットオプション] → [セキュリティ] から [信頼済みサイト] に登録しておいてください。

● NarSuS 登録には、本製品のシリアル No、MAC アドレスが必要になる場合があります。本製品背面のシールに記載されていますので、事前にご確認ください。

1	本製品へのログオンに成功したら、右のような画面が表示されます。 状況に応じて、ボタンをクリックします。 ●NarSuS に LAN DISK を登録したことがない ［NarSuS にはじめて登録（無料）］をクリック ●すでに NarSuS に他の LAN DISK を登録している ［NarSuS に製品を追加登録］をクリック ※NarSuS 登録をしてから、本製品の設定をおこなってください。

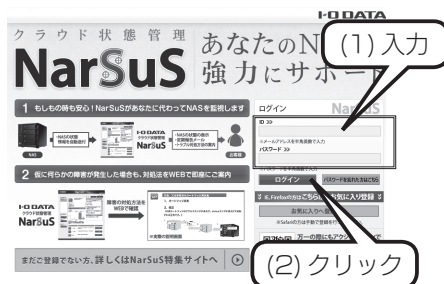
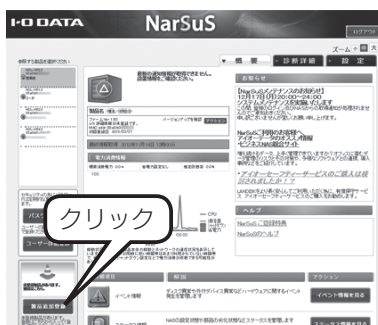
2	［NarSuS 登録画面を開く］を クリックします。

プロキシサーバー設定

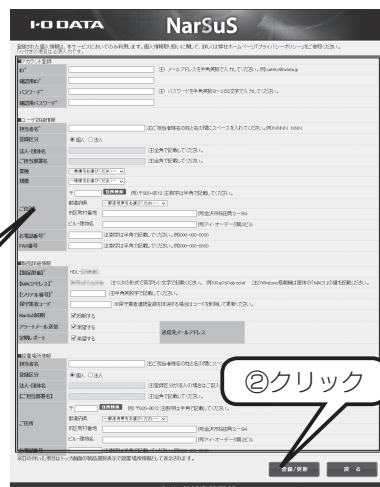
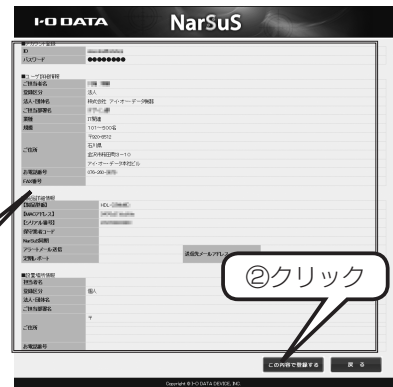
インターネット接続にプロキシサーバーの設定が必要な場合は、ご利用のネットワーク管理者に設定等をご確認ください。

インターネット接続できない場合

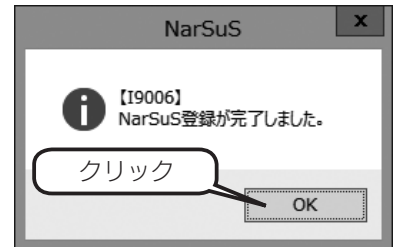
【●インターネットに接続できない場合】（23 ページ）をご覧ください。

NarSuS に製品を追加登録する場合

①右の画面が表示されます。
　NarSuS にログインしてください。

②［製品追加登録］をクリックします。

③次の手順にお進みください。

3	各項目を入力し、［登録 / 更新］をクリックします。 ※画面例は新規登録の場合です。

4 内容を確認し、［この内容で登録する］をクリックします。
※画面例は、新規登録の場合です。

5 ［NarSuS へ］をクリックします。

6 Web ブラウザーを閉じます。

7 ［OK］をクリックします。
別途、登録通知がメールアドレスに送付されますので、保管しておいてください。

以上で NarSuS 登録は完了です。
次に【ユーザーを作成する】（25 ページ）へお進みください。

ご注意

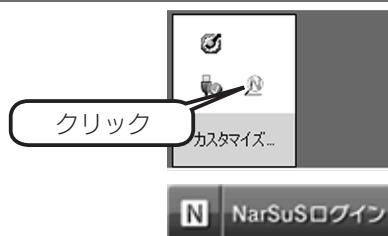
●以下を確認してください。

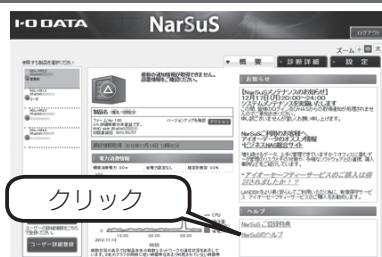
・インターネット接続できること
・LAN ケーブルが抜けていないこと
・プロキシサーバーの設定が必要な場合、正しく設定されていること
・本製品の TCP/IP 設定が手動の場合は、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーのアドレスが正しいこと
・お使いの Web ブラウザーのキャッシュ（Cookie）をクリアした上で、再度試すこと

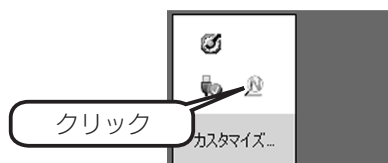
NarSuS へログインするには

方法 1　以下 URL にアクセスしてください。
https://www.narsus.jp/

方法 2　①タスクトレイのアイコンをクリックします。

② NarSuS 設定画面右上の
[NarSuS ログイン] ボタンをクリックします。

NarSuS の利用方法がわからない場合は

NarSuS へログイン後、[NarSuS のヘルプ] をクリックしてください。

NarSuS 設定画面

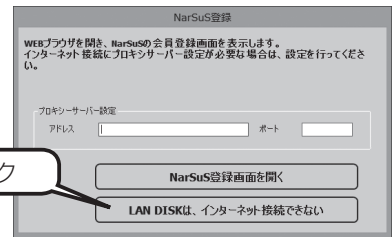
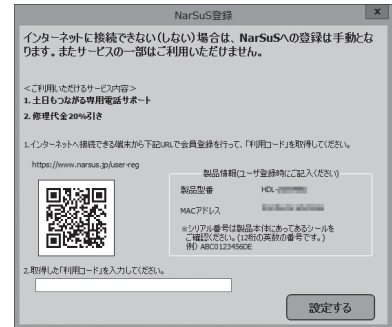
タスクトレイのアイコンをクリックすることで、
NarSuS 設定画面が表示されます。

※アップデート時に再起動する場合があります。ご注意ください。

NarSuS設定	プロキシの設定が必要な場合、［プロキシサーバー］にチェックをつけ、プロキシサーバーの［アドレス］と［ポート］を入力します。 ※設定内容については、ご利用のネットワーク管理者に確認してください。	
アップデート設定	自動アップデート設定	本NarSuSアプリや、NarSuSのイベント通知の定義ファイルが更新された場合の、自動アップデートについて設定します。 自動アップデートする場合は、実行する曜日、時刻を設定できます。 ※出荷時には、自動アップデートは有効になっています。
	プログラム手動更新	クリックすると、本NarSuSアプリを更新します。
	定義ファイル手動更新	クリックすると、NarSuSのイベント通知の定義ファイルを更新します。

利用コードの確認

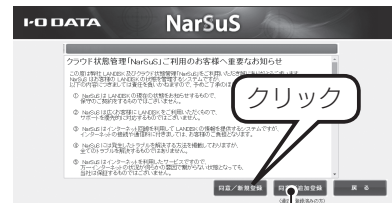
設定によっては、利用コードを求められます。
NarSuS の Web ページにログインし、本製品を選んだ後、［製品詳細登録］をクリックして、利用コードを確認してください。

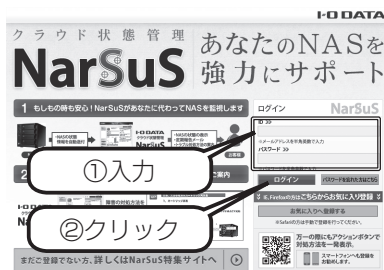
●インターネットに接続できない場合

【NarSuS登録をする】（19 ページ）の手順2の画面まで進み、［LAN DISK は、インターネット接続できない］をクリックした上でお読みください。

1	右の画面が表示されたことを確認します。

2	インターネット接続できるパソコンやスマートフォンなどで、登録ページを開きます。 **https://www.narsus.jp/user-reg**

QR コードを利用する

手順 1 の画面に登録ページアドレスの QR コードが表示されています。

3	［同意 / 新規登録］をクリックします。

NarSuS に追加で登録をする場合

①［同意／追加登録］ボタンをクリックします。
② NarSuS ログイン画面が表示されますので、すでに登録済みの［ID］、［パスワード］を入力し、［ログイン］ボタンをクリックします。

4	各項目を入力し、［登録 / 更新］をクリックします。 ※画面例は新規登録の場合です。

5	内容を確認し、［この内容で登録する］をクリックします。 ※画面例は、新規登録の場合です。

6	利用コードをメモします。 別途、登録通知がメールアドレスに送付されますので、保管しておいてください。

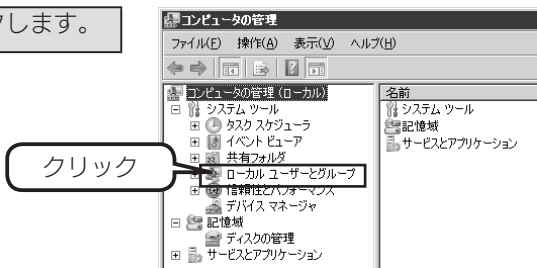
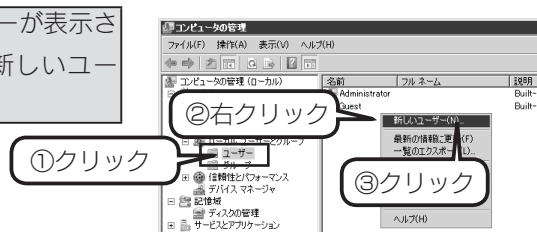
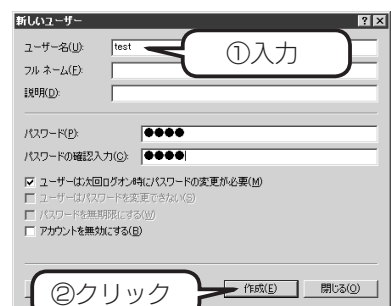
7	本製品の画面に戻ります。 メモした利用コードを入力し、［設定する］をクリックします。

以上で NarSuS 登録は完了です。

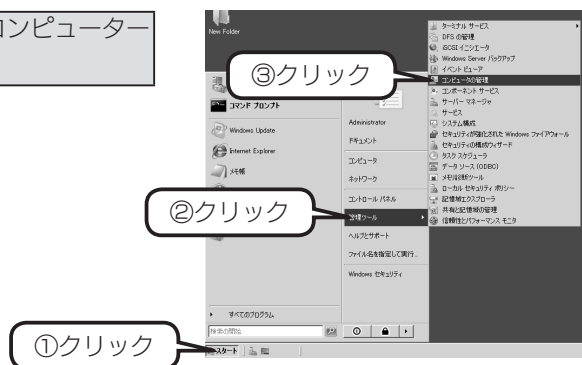
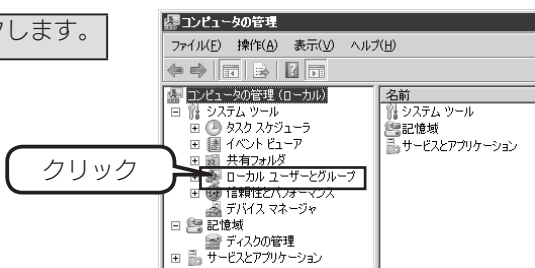
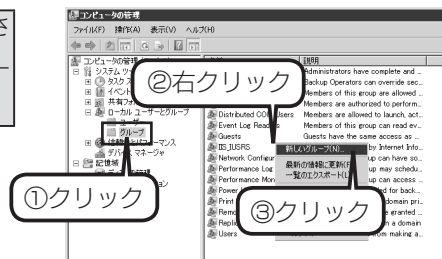
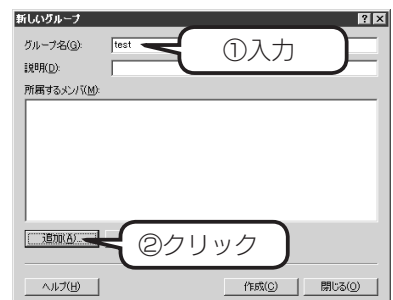
次に【ユーザーを作成する】（25 ページ）へお進みください。

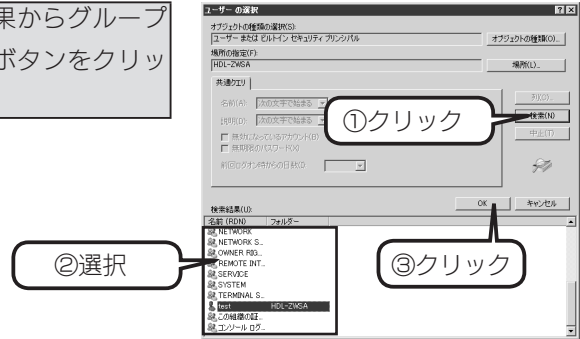
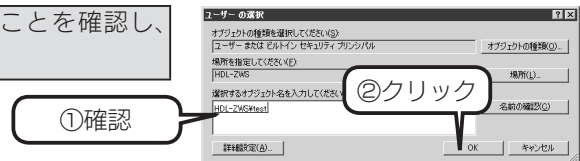
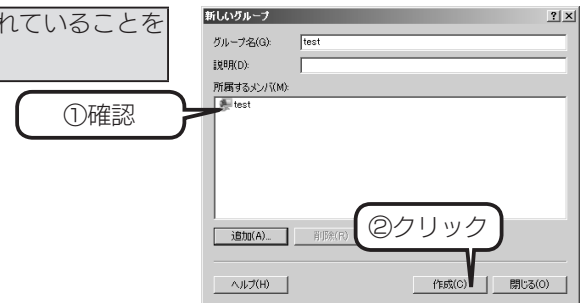
ユーザーを作成する

1	順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

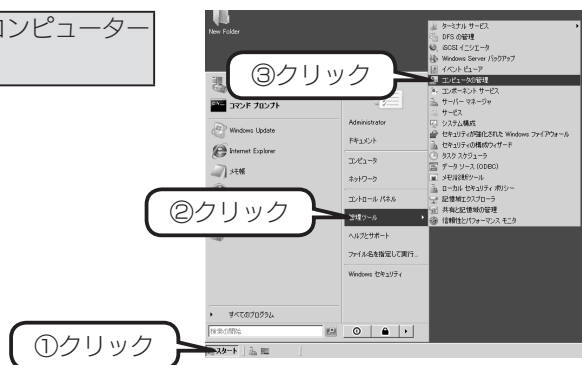
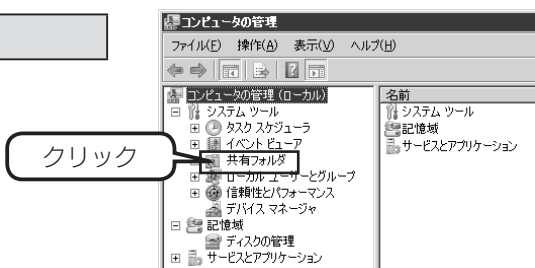
2	[ローカルユーザーとグループ] をクリックします。

3	[ユーザー] をクリックし、右側のユーザーが表示されているスペースを右クリックして、[新しいユーザー] をクリックします。

4	[ユーザー名] を入力し、[作成] をクリックします。 ※他の項目も必要に応じて設定します。

以上でユーザーの作成は完了です。

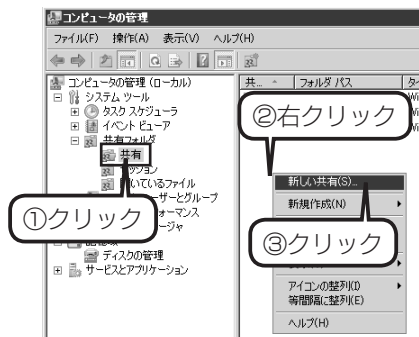
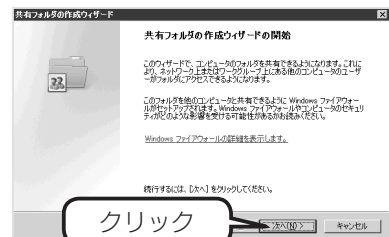
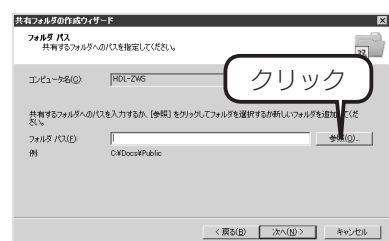
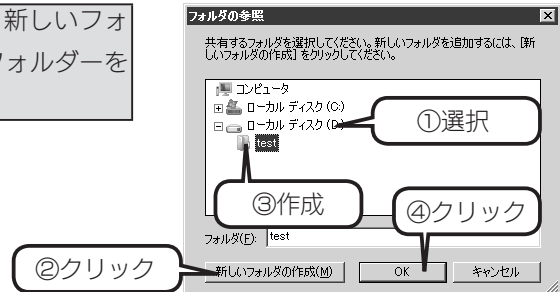
グループを作成する

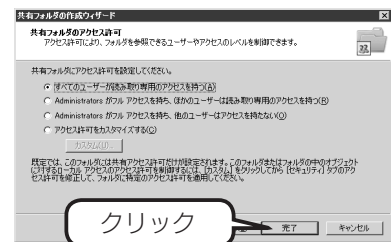
1	順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

2	[ローカルユーザーとグループ] をクリックします。

3	[グループ] をクリックし、右側のグループが表示されているスペースを右クリックして、[新しいグループ] をクリックします。

4	[グループ名] を入力し、所属するメンバーの [追加] ボタンをクリックします。 ※他の項目も必要に応じて設定します。

5	表示された画面で、[詳細設定] ボタンをクリックします。

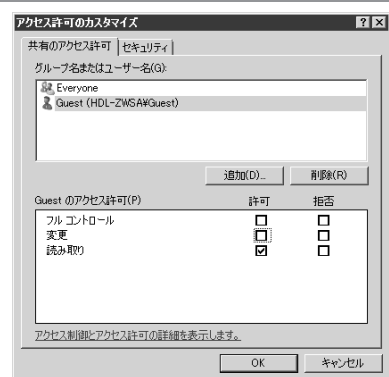
6 [検索] ボタンをクリックし、検索結果からグループに登録するユーザーを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

7 選択したユーザーが登録されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

8 所属するメンバーにユーザーが登録されていることを確認し、[作成] をクリックします。

以上でグループの作成は完了です。

共有フォルダーを作成する

1	順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

2	[共有フォルダー] をクリックします。

3	[共有] をクリックし、右側の共有フォルダーが表示されているスペースを右クリックして、[新しい共有] をクリックします。

4	共有フォルダー作成ウィザードが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。

5	[参照] ボタンをクリックします。

6	[ローカルディスク（D:）] を選択し、[新しいフォルダーの作成] ボタンをクリックし、フォルダーを作成し、[OK] ボタンをクリックします。

7	ウィザード画面に戻りますので、内容を確認して、[次へ] ボタンをクリックします。

8	アクセス権を選択し、[完了] ボタンをクリックします。 「アクセス許可をカスタマイズする」を選択した場合、[共有のアクセス許可] タブと [セキュリティ] タブでアクセス許可の設定ができます。

参考

● 「アクセス許可をカスタマイズする」を選択した場合、最終的なユーザーアクセス許可の設定は、「共有のアクセス許可」タブと「セキュリティ」タブのアクセス許可設定の論理和 (制限が厳しいほうが優先) により求められます。例えば、[共有のアクセス許可] に [変更]、[セキュリティ] に [読み取り] を設定した場合は、ユーザーのアクセス許可は、[読み取り] になります。

以上で共有フォルダーの作成は完了です。

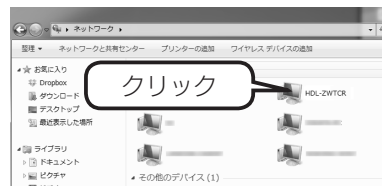
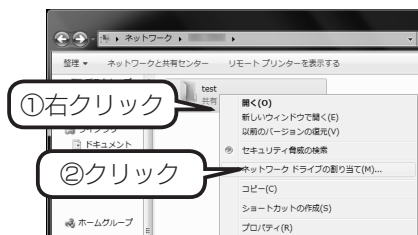
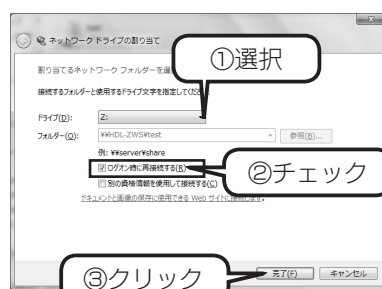
ご注意

●すべてのユーザーからアクセス可能な共有フォルダーを作成する場合、Windows Storage Server 2008 R2 では、ユーザー "Guest" のアカウント初期設定は、" 無効 " になっています。
ユーザー "Guest" のアカウントを有効にするには以下の手順でおこないます。

① [スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] を順にクリックします。
② [ローカルユーザーとグループ] をクリックします。
③ [ユーザー] をクリックし、右側のユーザーが表示されている [Guest] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
④ [アカウントを無効にする] のチェックを外し、[適用] ボタンをクリックします。

ネットワークドライブを割り当てる

本製品をネットワーク上から参照する際に、ネットワークドライブとして割り当てておくことができます。

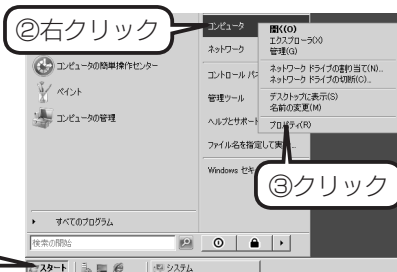
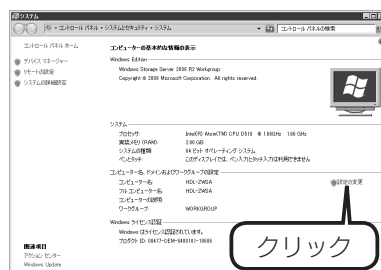
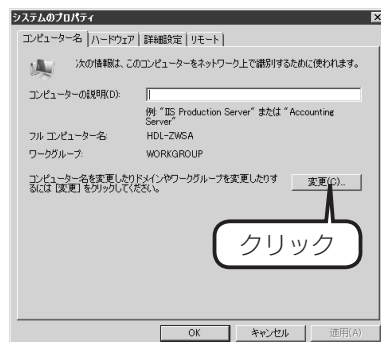
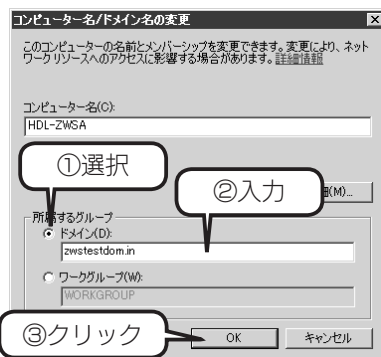
1	ネットワークに接続されているパソコンから、本製品の共有フォルダーを表示します。 例）Windows 7 の場合 ［コンピュータ］を開き、［ネットワーク］→［HDL-ZWTCR］をクリックします。

2	ネットワークドライブに割り当てるフォルダーを右クリックし、表示されたメニューの［ネットワークドライブの割り当て］をクリックします。

3	ネットワークドライブを割り当てます。 ①ドライブで本製品に割り当てる文字を選びます ②［ログオン時に再接続する］にチェックを入れます。 ③［完了］ボタンをクリックします。

これでネットワークドライブの割り当ては完了しました。
［コンピューター］などを開き、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。

Active Directory 環境へ参加する

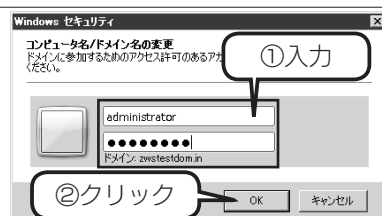
本製品を Active Directory 環境へ参加させる手順の一例です。ご利用のネットワーク環境に合わせ、必要に応じて設定してください。

ご注意

●以下の手順の前に、本製品の DNS サーバーの設定を行う必要があります。
Active Directry ドメイン名を解決可能な DNS サーバーを指定してください。

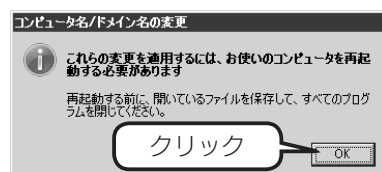
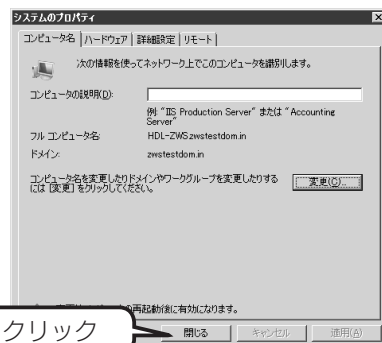
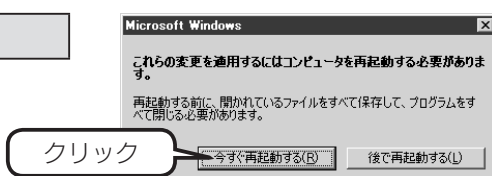
1	[スタート] をクリックし、[コンピューター] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

2	[コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定] の [設定と変更] をクリックします。

3	システムのプロパティの [変更] をクリックします。

4	[ドメイン] を選択し、ドメイン名を入力して、[OK] ボタンをクリックします。 ※画面は「ドメイン名：ZWSTESTDOM.IN」に参加する例です。

はじめに
初期設定
詳細設定
資料

5 ドメインコントローラーにアクセス可能なユーザー名とパスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。

※画面は、ドメインコントローラー”ZWSTESTDOM.IN”の管理者（ユーザー名：Administrator）のアカウントを入力した例です。

6 [OK] ボタンをクリックします。

ご注意

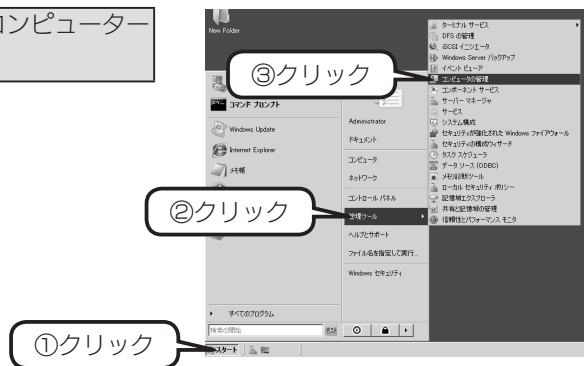
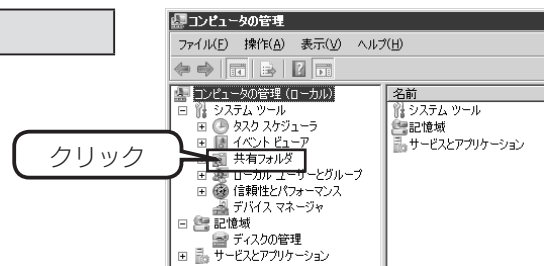
●画面が表示されない場合は、アカウントが正しいことをご確認ください。

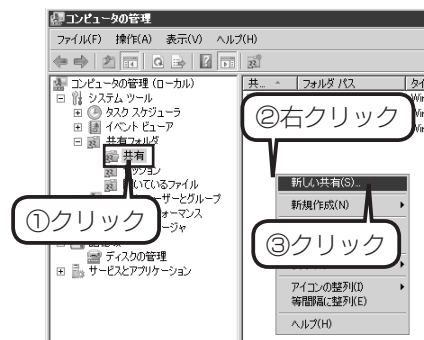
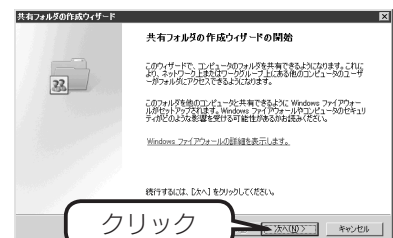
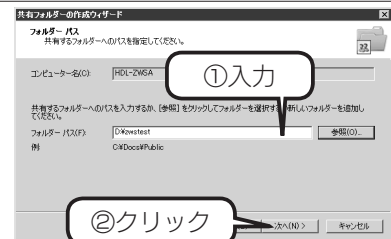
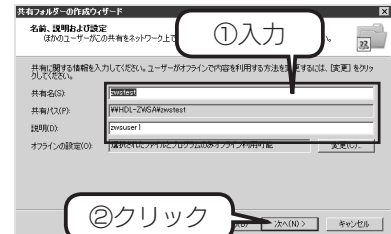
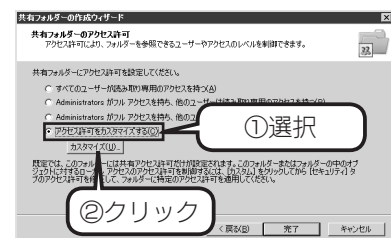
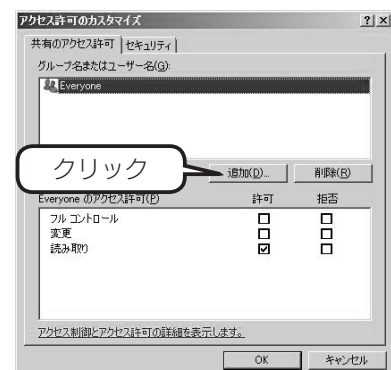
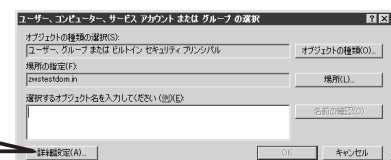
7 [OK] ボタンをクリックします。

8 [閉じる] ボタンをクリックします。

9 [今すぐ再起動する] ボタンをクリックします。

再起動後、本製品は Active Directory へのログオンができます。

Active Directory 環境で共有フォルダーを作成する

Active Directory に登録されているユーザー”zwsuser1”が読み書き可能な共有フォルダーを本製品に作成する手順です。

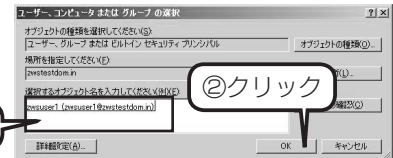
Active Directory 連携する共有フォルダーを作成するには、本製品がアクティブディレクトリへログオンしている必要があります。あらかじめ Active Directory へログオンしておいてください。(【Active Directory 環境へ参加する】(31 ページ)参照)

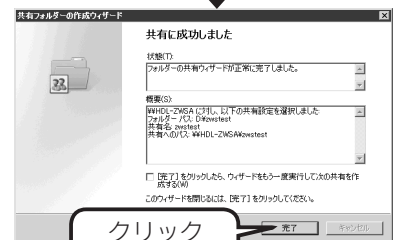
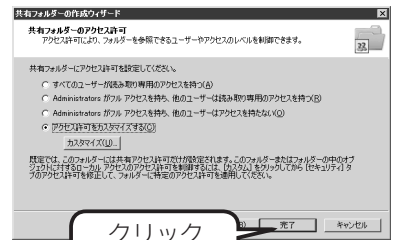
1	順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

2	[共有フォルダー] をクリックします。

3	[共有] をクリックし、右側の共有フォルダーが表示されているスペースを右クリックして、[新しい共有] をクリックします。

4	共有フォルダー作成ウィザードが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。

5 フォルダーパスを入力し [次へ] ボタンをクリックします。

6 共有名と説明を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

7 アクセス許可をカスタマイズするをクリックし、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。

8 共有のアクセス許可タブで、[追加] ボタンをクリックします。

9 [詳細設定] ボタンをクリックします。

10 ドメインコントローラーにアクセス可能なユーザー名とパスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。

※画面は、ドメインコントローラー”ZWSTESTDOM.IN”の管理者（ユーザー名：Administrator）のアカウントを入力した例です。

11	[検索] ボタンをクリックし、検索結果から作成する共有にアクセス権を設定したいユーザー名、またはグループ名を選択して [OK] ボタンをクリックします。 ※例では、ユーザー名：”zwsuser1”を選択しています。

12	選択したユーザー名、またはグループ名を確認し、[OK] ボタンをクリックします。

13	選択したユーザー名、またはグループ名が追加されたことを確認し、追加したユーザー名、またはグループ名を選択します。 その後、アクセス許可を確認し、[OK] ボタンをクリックします。 ※画面の例ではユーザー”zwsuser1”にフルコントロールを許可しています。

14	内容を確認して、[完了] ボタンをクリックします。

これで Active Directory 環境で共有フォルダーが作成されました。

電源を切る場合

本製品の電源を切る場合は、以下のいずれかの手順にしたがってください。

ご注意

●外付けハードディスクやプリンターがある場合は、本製品の電源を切ってから、外付けハードディスクやプリンターの電源を切ってください。
●長期間使用しない場合は、電源コードをコンセントから外しておくことをおすすめします。

Windows のリモートデスクトップにてシャットダウンする場合（推奨）

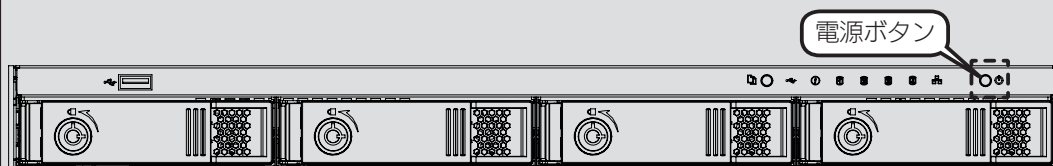
スタートメニューから [終了オプション] をクリックし、[シャットダウン] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
※ [オプション][説明] は必要に応じて選択・入力してください。
シャットダウン処理が終了すると、自動的にランプが消灯します。

本製品の電源ボタンでシャットダウンする場合

本製品前面の電源ボタンを短押し（1 秒程度）します。

ご注意

●電源ボタンを長押し (3秒以上) しないようご注意ください。
3 秒以上押した場合、強制電源断状態となり製品再起動後に RAID リビルドが発生する場合があります。

シャットダウン処理が終了すると、自動的にランプが消灯します。

ご注意

●本製品がロック状態になっていると、電源ボタンを押してもシャットダウンできない場合があります。
その場合は、USB キーボードでロックの解除を行ってから電源ボタンを押してください。

詳細設定

参考

●本書に記載のない機能など詳しくは、[スタート] → [ヘルプとサポート] をご覧ください。

Windows Update

Windows Update を行うと、本製品にインストールされている OS の既知の脆弱性に対する最新のセキュリティパッチがインストールされます。必要に応じて行ってください。

ご注意

●本手順は、本製品がインターネットにアクセスできる環境にある必要があります。

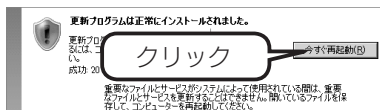
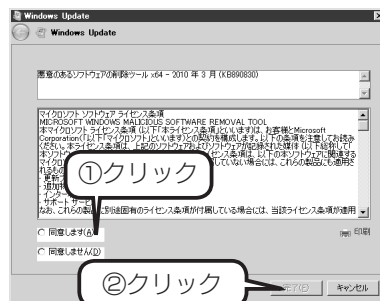
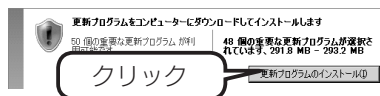
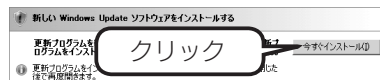
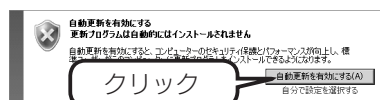
1 順に [スタート] → [すべてのプログラム] → [Windows Update] をクリックします。
※以下 URL より Windows Update 情報を参照できます。
http://www.iodata.jp/support/product/hdl-zwtcr/update/

2 [自動更新を有効にする] をクリックします。
※出荷時は、自動更新が無効になっています。

3 [今すぐインストール] をクリックします。

4 [更新プログラムのインストール] をクリックします。

5 内容を読み、同意する場合は [同意します] をチェックし、[完了] をクリックします。
※同意しない場合はインストールできません。
更新プログラムのダウンロード、インストールが実行されますのでしばらくお待ちください。

6 更新プログラムのダウンロード、インストールが実行されますのでしばらくお待ちください。
右の画面が表示されたら、[今すぐ再起動] をクリックします。

再起動すると、Windows Update は 完了です。

RAID 設定

本製品で設定できる RAID モード

RAID 5（出荷時設定）	4 つのハードディスクを 1 つのボリュームとして認識、パリティとともに分散記録します。 ディスク 1 台の故障に対応するデータ保護機能、容量、高速性のバランスのよいモードです。
RAID 0	4 つのハードディスクを 1 つのボリュームとして認識します。 データ保護機能はありませんが、大容量と高速性を追求したモードです。
マルチディスクモード	4 つのハードディスクを個々で認識し、4 台のハードディスクとして使用できます。

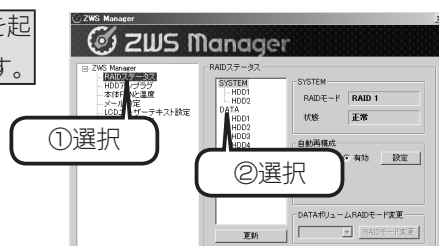
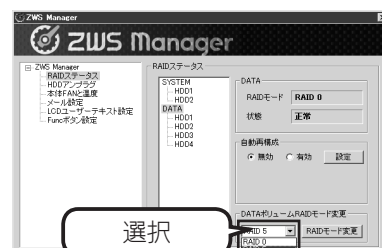
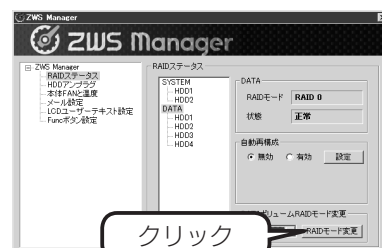
RAID モードを変更する

ご注意

- RAID モードを変更する前に、データをバックアップしてください。RAID モード変更時にデータは消去されます。
- 本製品のシステム領域の RAID モードは変更できません。
- マルチディスクモード→ RAID モードに変更、および RAID モード→マルチディスクモードに変更する場合は、「ZWS Manager」から設定できません。サポート DVD-ROM から設定変更してください。設定方法については、【マルチディスク】（39 ページ）をご覧ください。

「ZWS Manager」で設定します。

「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】（76 ページ）をご覧ください。

1	タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[RAID ステータス] → [DATA] を選択します。

2	変更する RAID モードを選択します。

3	[RAID モード変更] をクリックします。 選択した [RAID モード] への変更を開始ます。([状態] が再構築中になります。) ※ RAID 5 へ構築した場合、4T バイトモデルで約 12.5 時間かかります。

これで RAID モードの変更は完了です。

マルチディスク

マルチディスクは、４つのハードディスクを個々で認識し、４台のハードディスクとして使用できます。

ご注意

● RAID 0 または RAID 5 が構成されている状態からマルチディスクモードに、またマルチディスクモードから RAID 0 または RAID 5 に変更する際､すべての設定情報や保存されていたデータが消去されます。必要なデータや設定情報は必ずバックアップを行ったのちに切り替えてください。

ステップ 1　準備する

1 次の機材をご用意ください。
- ・ディスプレイ
- ･USB キーボード
- ･USB 接続の DVD ドライブ（USB 2.0 対応のもの）
- ・本製品添付のサポート DVD-ROM

2 本製品の VGA コネクターにディスプレイを接続します。

3 本製品の USB 2.0 ポートに USB キーボードを接続します。

4 本製品の USB 2.0 ポートに USB 接続の DVD ドライブを接続します。
上記以外の、USB ハードディスクおよび eSATA ハードディスクは接続しないでください。

以下の【ステップ2】へお進みください。

ステップ2　マルチディスクに設定する

1 DVD ドライブにサポート DVD-ROM を挿入し、本製品の電源を入れます。

参考

●リカバリープログラムが起動しない場合、BIOS 設定の変更が必要な場合があります。
以下の手順で BIOS 設定を変更してください。
①本製品の電源投入直後より、[F2] キーを押しつづけて、BIOS 設定画面を起動します。
②カーソルキーで [ブート] を選択します。
③ [USB CD:] にカーソルを合わせ、[＋] キーで優先順位を [ATA HDD x] より上位にします。

以上で BIOS 設定は変更されました。ステップ 2 手順 1 より再度実行してください。

はじめに
初期設定
詳細設定
資料

2	リカバリープログラムが起動し、使用許諾が表示されます。 キーボードの 2 を入力し [Enter] キーを押します。 (「2 - マルチディスクモードでリカバリー」を選択します。)

3	「本当にリカバリーを実行してよろしいですか？ (yes/no)」で、[yes] と入力して、[Enter] キーを押します。 →リカバリーが開始されます。システムのリカバリーには 15 分～ 30 分程度必要です。

4	「リカバリーが正常に完了しました。サポート DVD を抜いてください。 何かキーを押すと再起動します。」 と表示されたら、システムリカバリーは完了です。サポート DVD-ROM を本製品から取り外し、何かキーを押します。 →本製品が再起動します。 再起動完了後、本製品はマルチディスクモードとなっています。

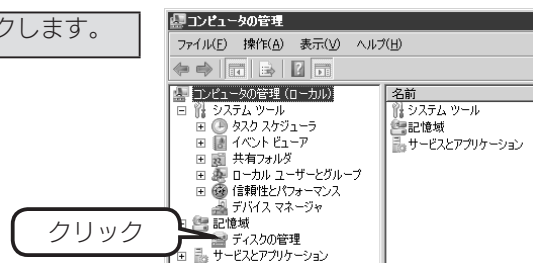
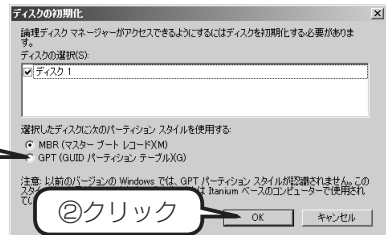
以下の【ステップ 3】へお進みください。

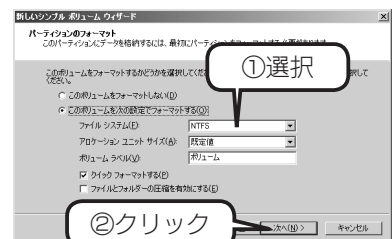
ステップ3　ハードディスクを初期化する

マルチディスクモードでの起動直後は、以下のようなディスク構成となっています。

HDD1	起動用パーティション	システムパーティション	データパーティション
HDD2	データパーティション		
HDD3	データパーティション		
HDD4	データパーティション		

1	順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

2	[記憶域] → [ディスクの管理] をクリックします。

3	[GPT] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

4	ディスク 0 のデータパーティションを右クリックして、[新しいシンプルボリューム] をクリックします。（データパーティションは「未割り当て」と表示されています。）

5	フォーマット形式に [NTFS] を選択し、[次へ] をクリックします。 あとは画面の指示にしたがってください。

すべてのドライブの未割り当て領域を NTFS フォーマットすると、それぞれのドライブを独立して管理できるようになります。
以上で設定は終了です。

iSCSI 設定

iSCSI Target 機能により、本製品上に作成した仮想ディスク (VHD) を iSCSI ストレージとして、提供することができます。

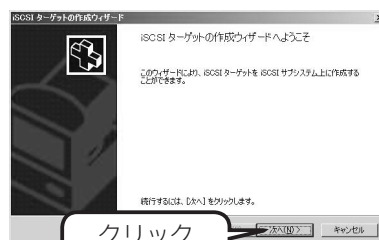
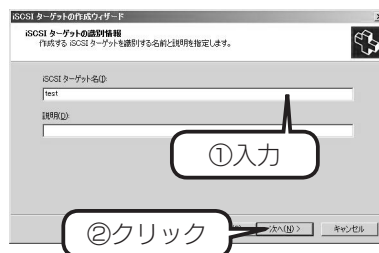
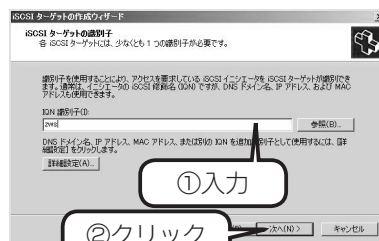
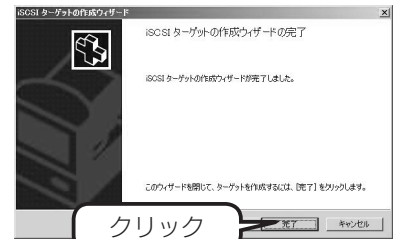
iSCSI Target の準備

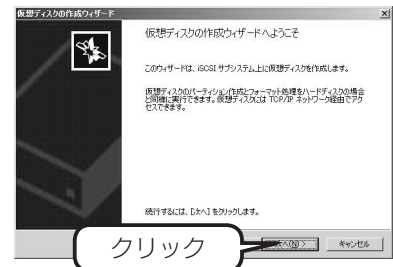
ご注意

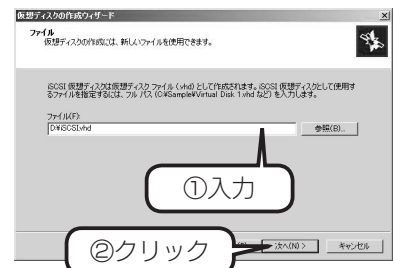
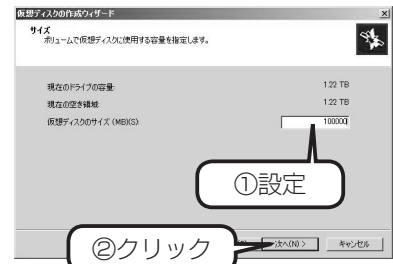
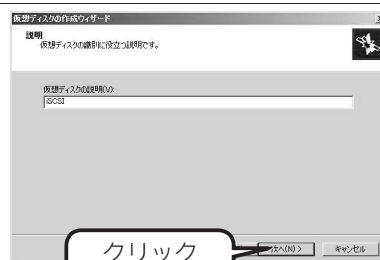
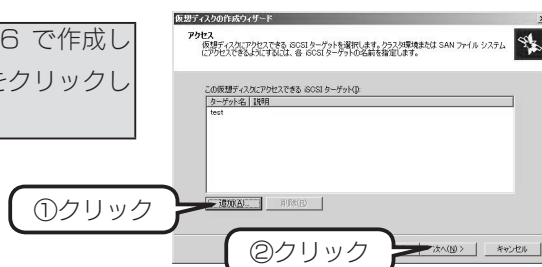
●事前にファイアウォールの設定にて、TCP3260 番 (受信のみで可) を開ける必要があります。

1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2	[記憶域] → [Microsoft iSCSI Software Target] を開き、[iSCSI ターゲット] 右クリックし、[iSCSI ターゲットの作成] をクリックします。

3	[次へ] ボタンをクリックします。

4	[iSCSI ターゲット名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。 ※ [説明] は必要に応じて入力します。

5	iSCSI イニシエーターの IQN(イニシエーター修飾名) を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。 ※ IQN が不明な場合は、[詳細設定] からイニシエーター側パソコン の DNS ドメイン名、IP アドレス、MAC アドレスなどを指定することもできます。

6 ［完了］ボタンをクリックします。

7 ［デバイス］を右クリックし、［仮想ディスクの作成］をクリックします。

8 ［次へ］ボタンをクリックします。

9 ファイル欄に作成する仮想ディスク名を、ドライブ名を含むフルパスで入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

※画面の例は、本製品のシステムドライブ（D：）上に、iSCSI.vhd という仮想ディスクを作成する例です。
D:¥iSCSI.vhd

10 仮想ディスクのサイズを MB 単位で設定し、［次へ］ボタンをクリックします。

11 必要に応じて仮想ディスクの説明を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

12 [追加] ボタンをクリックし、手順 1 ～ 6 で作成したターゲットを追加し、[次へ] ボタンをクリックします。

iSCSI イニシエーターの準備

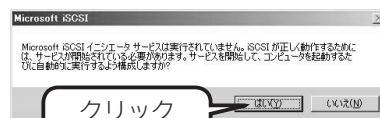
Windows Vista 以前の OS の場合は、Microsoft のダウンロードサイトより iSCSI イニシエーターをダウンロードの上、iSCSI Target のディスクを使用する環境へインストールしてください。

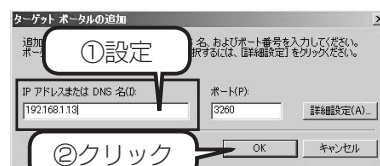
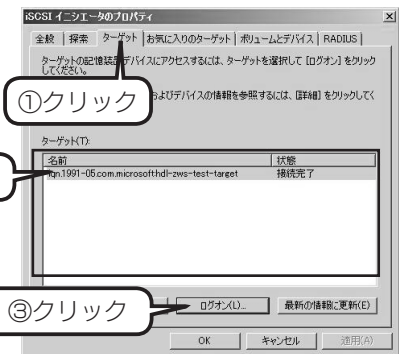
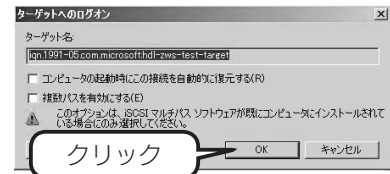
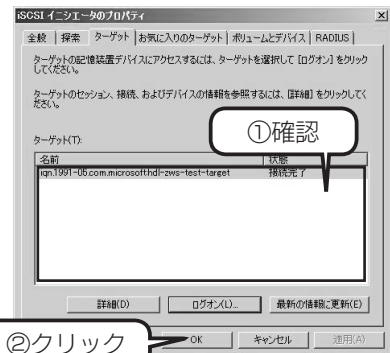
※以下の画面は Windows Storage Server 2008 R2 での設定画面になります。

1 [スタート] → [管理ツール] → [iSCSI イニシエーター] をクリックします。

参考

● Windows 7、Vista で iSCSI イニシエーターを開くには、[スタート] → [プログラムとファイルの検索] の入力欄に [iSCSI] と入力し、[Enter] キーを押します。

2 メッセージが表示された場合は、[はい] を選択し、iSCSI イニシエーターを起動します。

3 iSCSI イニシエーターのプロパティを開き、[探索] タブ→ [ポータルの追加] ボタンをクリックします。

4 iSCSI Target 側サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

5	[ターゲット] タブをクリックし、検出されたターゲットに表示された IQN を選択して、[ログオン] ボタンをクリックします。

6	[OK] ボタンをクリックします。

7	接続したターゲットの IQN の状態が「接続完了」になっていることを確認して、[OK] ボタンをクリックします。

以上で iSCSI イニシエーターの設定は完了です。

ディスクの管理を開き、接続した iSCSI Target 側の仮想ディスクが追加されたことを確認してください。

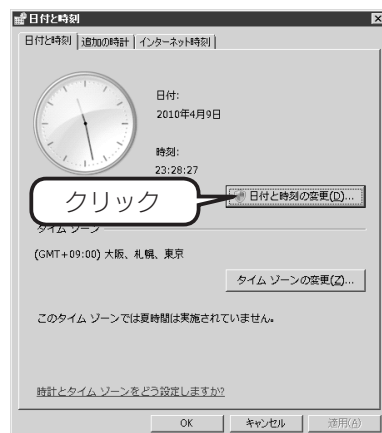
※ディスクの初期化画面が表示された場合は、ディスクを初期化する必要があります。表示された画面の指示にしたがって、ディスクの初期化を行ってください。

日時設定

1	タスクトレイに表示されている時刻をクリックし、[日付と時刻の設定の変更] をクリックします。

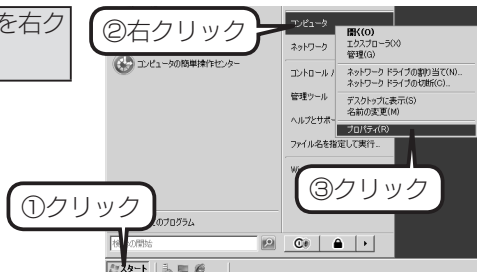
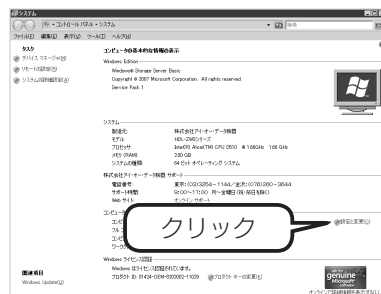
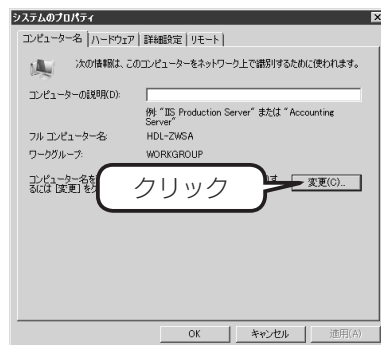
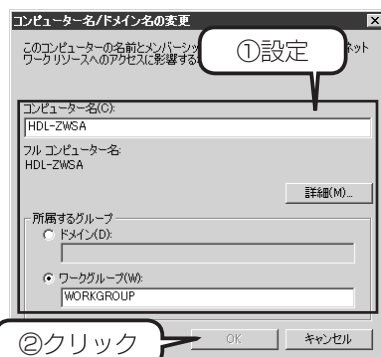
2	[日付と時刻の変更] ボタンをクリックします。

参考

●インターネットに接続されている環境の場合は、[インターネット時刻] タブをクリックし、[設定の変更] をクリックして、[今すぐ更新] を選択すると自動で時刻を取得することができます。

3	現在の [日時] と [時刻] を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

以上で日時設定は完了です。

サーバー名、ワークグループ、ドメインの変更

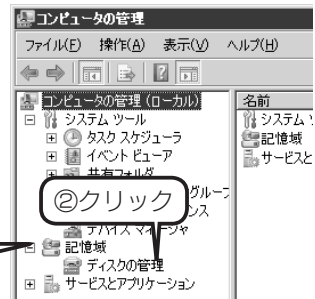
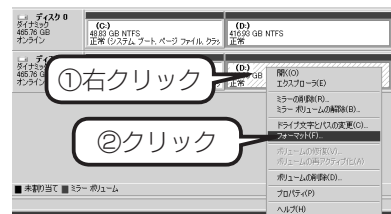
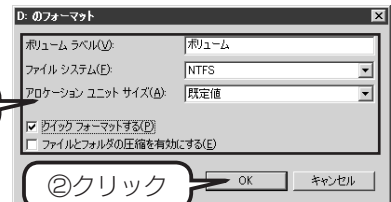
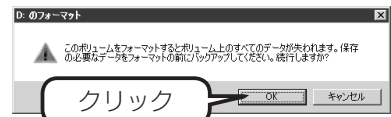
1	[スタート] をクリックし、[コンピューター] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

2	[コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定] の [設定と変更] をクリックします。

3	[変更] ボタンをクリックします。

4	変更が必要な項目を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

以上でサーバー名、ワークグループ、ドメインの変更は完了です。

ボリュームのフォーマット

ご注意

●フォーマットを実行すると、対象ハードディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に必ずバックアップをおとりください。

1 ［スタート］→［管理ツール］→［コンピューターの管理］をクリックします。

2 ［記憶域］をクリックし、［ディスクの管理］をクリックします。

3 ［ボリューム（D:）］を右クリックし、［フォーマット］を選択します。

4 必要に応じて設定し、［OK］ボタンをクリックします。

5 ［OK］をクリックします。
フォーマットを開始します。

以上でフォーマットは完了です。

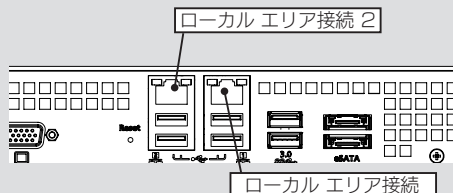
IP アドレス設定

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとインターネット] を開きます。

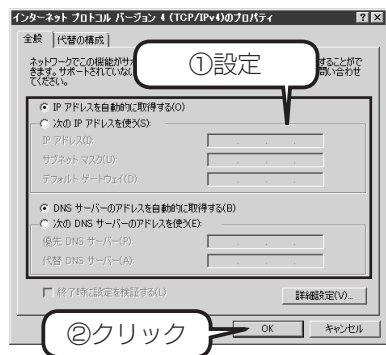
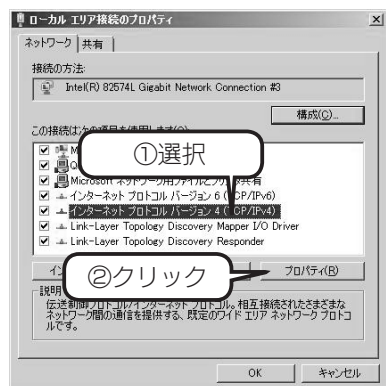
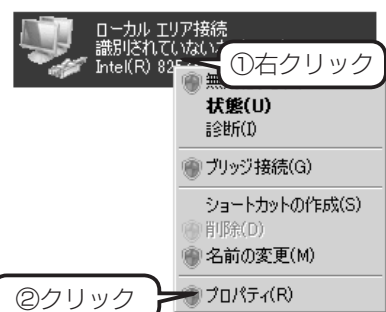
2 [ネットワークと共有センター] をクリックします。

3 ［アダプターの設定の変更］をクリックします。

4 設定する LAN アダプターを右クリックして、［プロパティ］をクリックします。

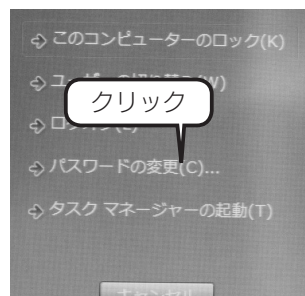
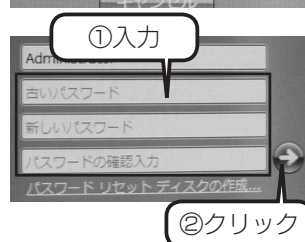
※ LAN ポートと［ネットワーク接続］で表示されるアダプターは以下の図のようになります。

5 [インターネットプロトコルバージョン４（TCP/IPv4)］を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

6 本製品を接続するネットワーク環境に適した IP アドレスを設定し、[OK] ボタンをクリックします。

以上で IP アドレスの設定は完了です。

パスワード変更

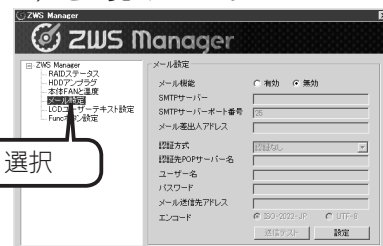
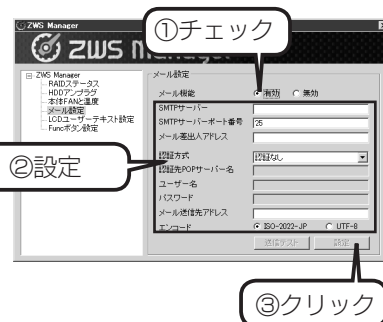
管理者パスワードは、セキュリティーのため出荷時設定から変更することをおすすめします。

1	●リモートデスクトップ接続の場合 Administorator でログオン後、[スタート] → [Windows セキュリティ] をクリックします。 ●【設定方法③】（17 ページ）の場合 Administorator でログオン後、キーボードの [Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを押します。

2	パスワードの変更をクリックします。

3	以下のように入力し、[→] をクリックします。 古いパスワード：admin 新しいパスワード：任意のパスワード 新しいパスワードの確認入力：任意のパスワード 出荷時パスワードは「admin」です。 Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。

以上でパスワードの変更は完了です。

メール設定

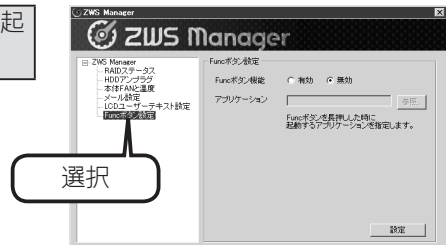
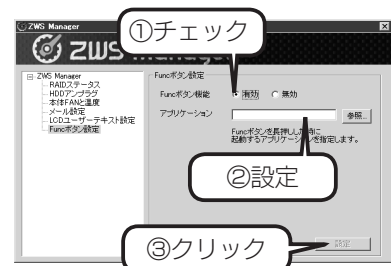
「ZWS Manager」で設定します。
「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】（76 ページ）をご覧ください。

1	タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[メール設定] を選択します。

2	[メール設定] で [有効] にチェックをつけます。 各項目を必要に応じて入力、選択し、[設定] ボタンをクリックします。

以上でメール設定は完了です。

Funcボタン設定

「ZWS Manager」で設定します。

「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】（76 ページ）をご覧ください。

1	タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[Func ボタン設定] を選択します。

2	[Func ボタン設定] で [有効] にチェックをつけ、関連付けるアプリケーションのパスを入力し、[設定] ボタンをクリックします。 Func. ボタンに登録できるアプリケーションは、バッチファイルなどコマンドラインで操作できるもののみとなります。

以上で Func ボタンの設定は完了です。

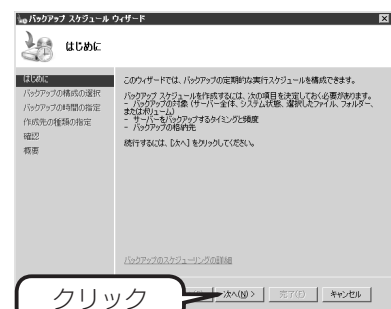
バックアップ設定

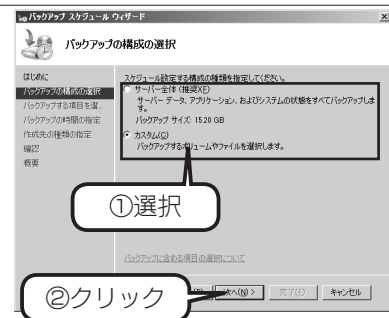
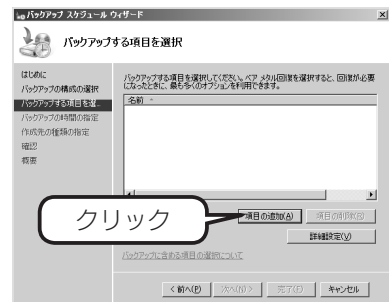
ご注意

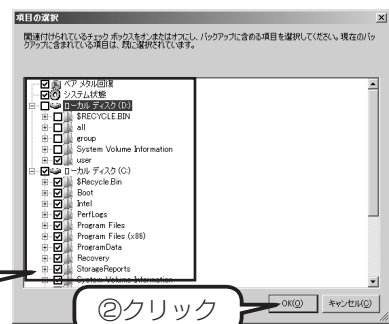
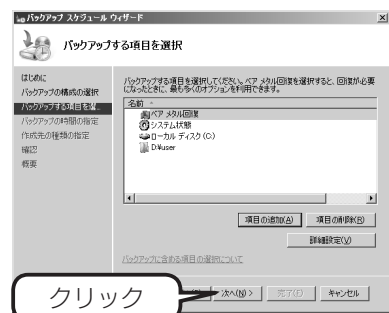
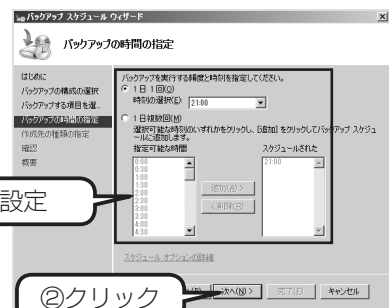
- Windows Server バックアップでは、2TB 以上のデータをバックアップすることはできません。
  また、ボリューム容量が 2TB を超える場合、ボリューム全体ではなくバックアップ対象のフォルダーを個別に指定する必要があります。
  保存されているデータ容量が多い環境では、市販のバックアップソフトのご利用をおすすめします。動作確認済バックアップソフトについては、弊社ホームページをご参照ください。

1	[スタート] → [管理ツール] → [Windows Server バックアップ] をクリックします。

2	画面右側 [操作] ウィンドウ内の［バックアップスケジュール］をクリックします。

3	表示された画面の [次へ] ボタンをクリックします。

4 バックアップ構成を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

※ここでは [カスタム] を選択します。（本製品の容量が 2.0TB を超える場合は､OS の仕様により [サーバー全体] をバックアップすることはできません。）

5 [項目の追加] ボタンをクリックします。

6 [ベアメタル回復][システム状態][ローカルディスク C][ローカルディクスク D] にチェックをつけます。[ローカルディクスク D] ではバックアップしたいフォルダーのみ選択し、[OK] ボタンをクリックします。

※バックアップを取得するフォルダーのデータ量は、選択したフォルダーの容量が合計 2TB 以下である必要があります。

7 [次へ] ボタンをクリックします。

8 バックアップの時刻と頻度を設定し、[次へ] ボタンをクリックします。

9 バックアップの保存場所を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
※画面は、外付ハードディスクにバックアップする場合の例です。

10 バックアップの保存先ディスクを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

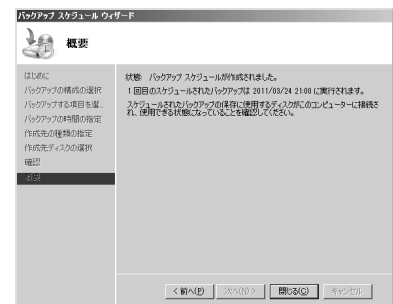
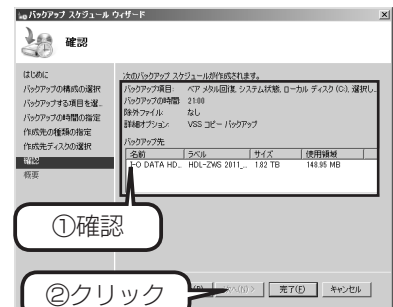
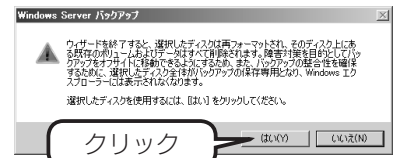
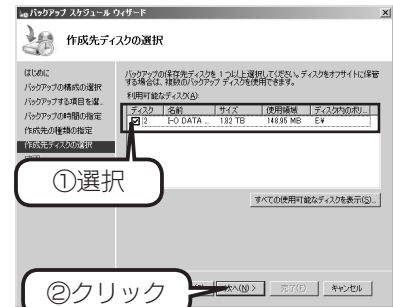
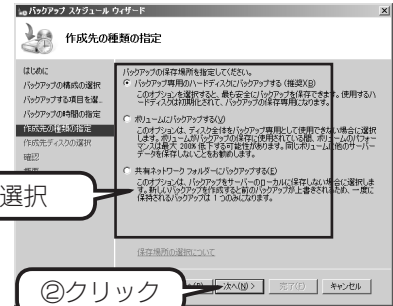
ご注意

●バックアップ先のハードディスクはフォーマットされます。
必要なデータがある場合は、事前に、バックアップ先のハードディスクのデータをバックアップしてください。

11 外付けハードディスクはバックアップの保存専用となり、Windows エクスプローラーには表示されなくなります。
問題なければ、[はい] ボタンをクリックします。

12 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックします。
→外付けハードディスクがフォーマットされ、
バックアップスケジュールが作成されます。

▼

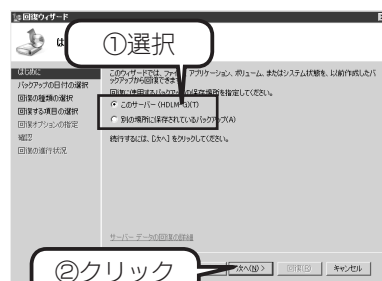
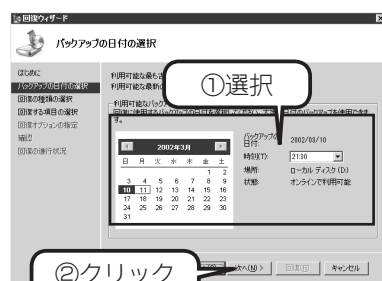
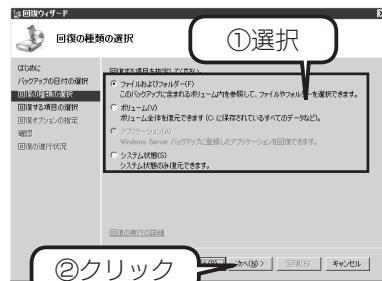
以上でバックアップ設定の作成は完了です。

はじめに
初期設定
詳細設定
資料

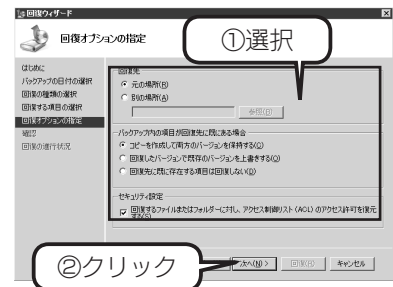
回復する

バックアップしたファイルおよびフォルダーを、本製品へ回復する方法を説明します。

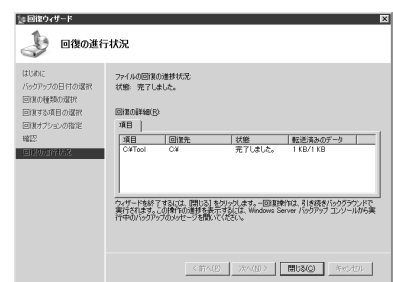
1 [スタート] → [管理ツール] → [Windows Server バックアップ] をクリックします。

2 画面右側 [操作] ウィンドウ内の [回復] をクリックします。
→回復ウィザードが表示されます。

3 どのサーバーからデータを回復するかを選択し、[次へ] をクリックします。
※ここでは、[このサーバー] を選択します。

4 回復に使用する日付、時刻を選択し、[次へ] をクリックします。

5 回復する項目を選択し、[次へ] をクリックします。
※ここでは、[ファイルおよびフォルダ] を選択します。

6	ツリーを参照し、回復するファイルまたはフォルダーを選択し、[次へ] をクリックします。 ※ここでは、C：¥Tool フォルダを指定しています。

7	回復オプションを選択し、[次へ] をクリックします。

8	設定した内容が表示されますので、内容を確認し、[回復] をクリックします。 →回復が開始されますので、完了するまでお待ちください。

▼

完了すると、ウィザード内の [状態] へ完了のメッセージが表示されます。
[閉じる] をクリックし、復元されたファイルまたはフォルダーを確認してください。

< Windows が起動しない状態でシステムを回復する場合>

この操作を行う場合は、本製品背面の VGA コネクターにディスプレイ、USB ポートにキーボード、マウス、USB 接続 DVD ドライブを接続してから以下の手順にしたがって進めてください。

1	本製品の電源が切れた状態で添付のサポート DVD-ROM を DVD ドライブに挿入します。また、回復するシステムが保存されているデバイス（USB 接続 HDD など）がある場合は接続します。

2	本製品の電源を入れます。

3	「R- Windows Recovery Environment を起動する」と表示されたら [r] キーを押します。

4	「キーボード入力方式を選択してください」と表示されたら、お使いのキーボードレイアウトを選択します。 例：[Microsoft IME]

5	「システム回復オプション」画面が表示されたら、「Windows の起動に伴う問題の修復用の回復ツールを使用します。」にチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。

6	[システム イメージの回復] をクリックします。

7	「システム イメージ バックアップの選択」画面で、回復するシステムイメージを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

8	「他の復元方法を選択してください」と表示されたら、[システム ドライブのみ復元する] にチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。

9	回復するシステムイメージを再度確認し、問題なければ [完了] ボタンをクリックします。 ※「続行しますか?」と表示されたら、[はい] ボタンをクリックします。 →システムの回復を開始します。

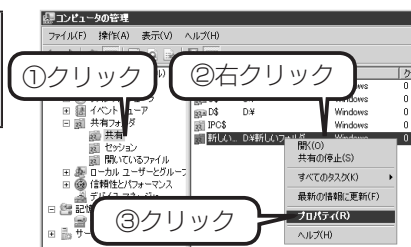
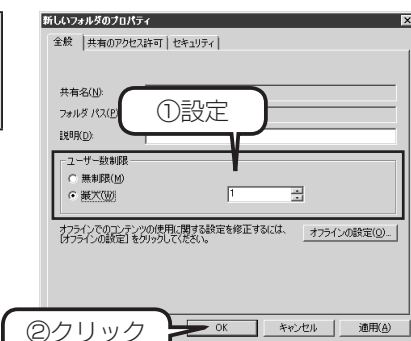
10	「今すぐコンピューターを再起動しますか?」表示されたら、サポート DVD-ROM を抜いて、[今すぐ再起動する] ボタンをクリックします。 →本製品が再起動します。

これで回復は完了です。

ユーザー数制限

共有リソースに一度にアクセスできるユーザー数を制限する機能です。

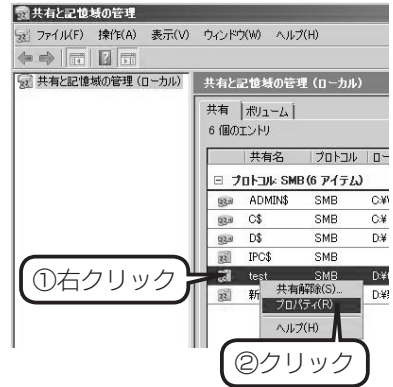
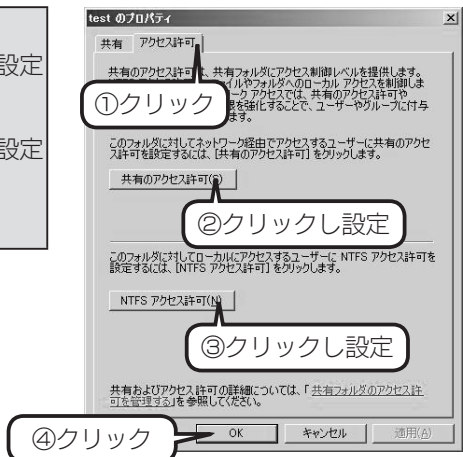
1	[スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

2	[共有フォルダー] の [共有] をクリックし、制限する共有フォルダーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

3	［ユーザー数制限］の［最大］をクリックし、制限する人数を入力して、[OK] ボタンをクリックします。設定できるユーザー数に制限はありません。

以上でユーザー制限は完了です。

アクセス許可

共有リソースにアクセス許可を割り当てると、ユーザーのアクセスを制限することができます。
共有リソースへのアクセス許可には、NTFS アクセス許可と共有アクセス許可があります。

1	[スタート] → [管理ツール] → [共有と記憶域の管理] をクリックします。

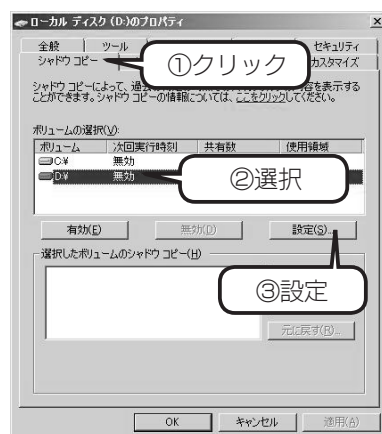
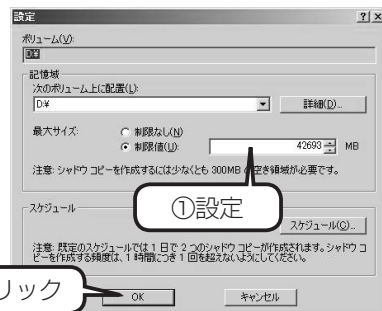
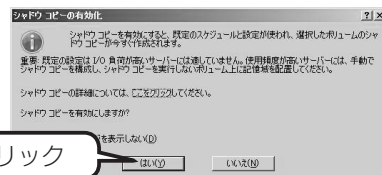
2	アクセス許可設定をする共有フォルダーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

3	①［アクセス許可］タブをクリックします。 ②［共有のアクセス許可］ボタンをクリックし、設定します。 ③［NTFS アクセス許可］ボタンをクリックし、設定します。 ④ [OK] ボタンをクリックします。

以上でアクセス許可の設定は完了です。

シャドウコピー設定

共有フォルダーのシャドウコピー（Shadow Copies of Shared Folders : SCSF）は、ボリュームシャドウコピーサービスを使用して、ファイルの任意の時点でのコピー（シャドウコピー）を作成するスナップショット技術です。

1	[スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

2	[ディスクの管理] をクリックし、シャドウコピーの設定をするボリュームを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

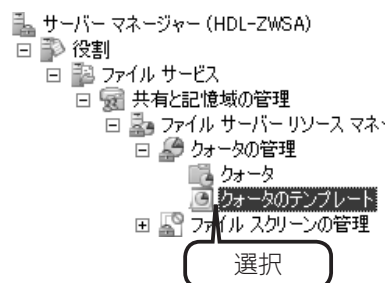
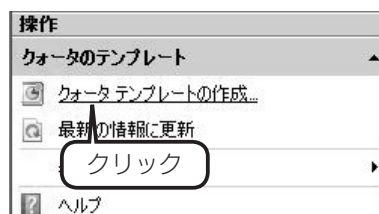
3	［シャドウコピー］タブをクリックし、［ボリュームの選択］からシャドウコピーの設定をするボリュームを選択し［設定］ボタンをクリックします。

4	シャドウコピーの最大サイズを設定し、[OK] ボタンをクリックします。

5	［有効］をクリックし、表示された画面で [はい] ボタンをクリックします。

以上でシャドウコピーの設定は完了です。

クォータ管理

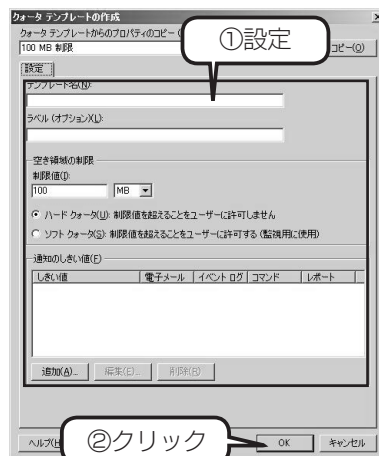
クォータは、ディレクトリ単位で、ユーザーが使用できるディスクサイズを制限する機能です。
クォータにより、ユーザーは割り当てられたディスクサイズ以上の領域をそのディレクトリで使用することができなくなります。

クォータテンプレートを作成する

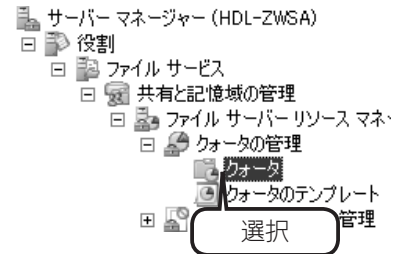
1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

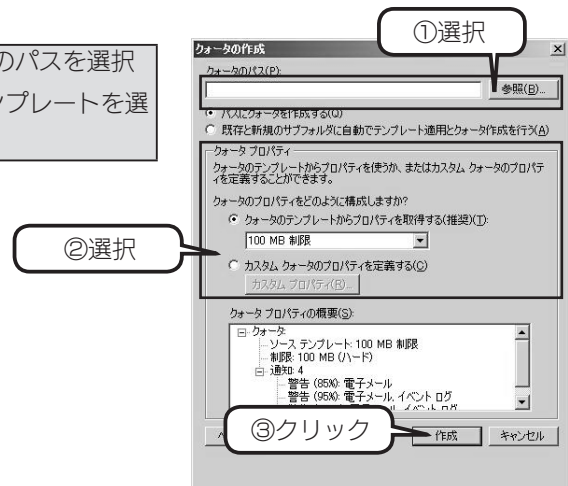
2	[役割] → [ファイルサービス] → [共有と記憶域の管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャー] → [クォータの管理] → ［クォータのテンプレート］を選択します。

3	右側の [操作] ウィンドウの［クォータテンプレートの作成］をクリックします。

4	クォータテンプレートの設定を行い、[OK] ボタンをクリックします。

テンプレート名	任意の名前を入力します。
ラベル	必要に応じて入力します。
空き領域の制限	制限値を入力し、[ハードクォータ] または [ソフトクォータ] を選択します。
通知のしきい値	設定したしきい値に達するとメールで通知できる機能です。[追加] ボタンをクリックし、必要に応じて設定します。

以上でクォータテンプレートの作成は完了です。

クォータを作成する

1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2	[役割] → [ファイルサービス] → [共有と記憶域の管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャー] → [クォータの管理] → ［クォータ］を選択します。

3	右側の［操作］ウィンドウの［クォータの作成］をクリックします。

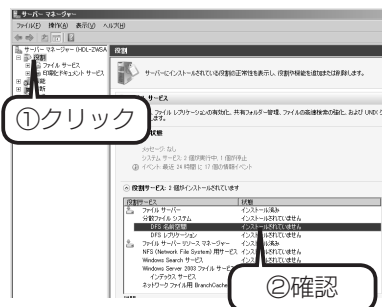
4	[クォータのパス] で共有フォルダーへのパスを選択し、クォータプロパティでクォータテンプレートを選択し、[作成] ボタンをクリックします。

以上でクォータの作成は完了です。

DFS の設定

［DFS の管理］コンソールは、DFS 名前空間と DFS レプリケーションの管理を行う MMC スナップインです。［DFS の管理］コンソールは、ウィザードを使用して、これらの設定を行うことができます。また、管理アクセス許可を、任意のユーザーに割り当てることで DFS の管理タスクを委任することもできます。

名前空間をインストールする

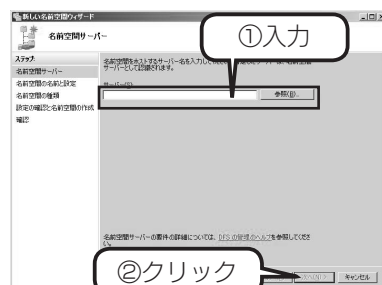
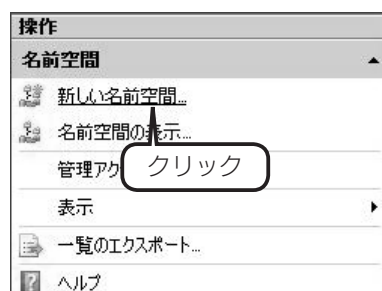
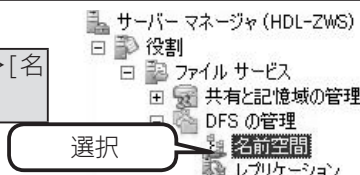
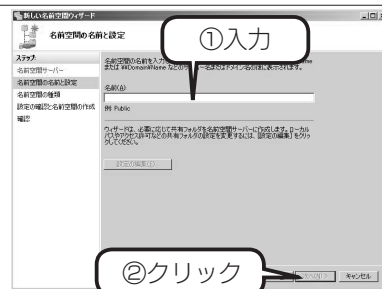
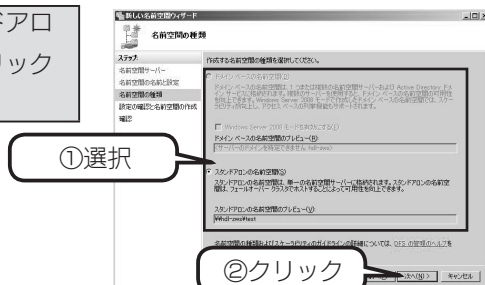
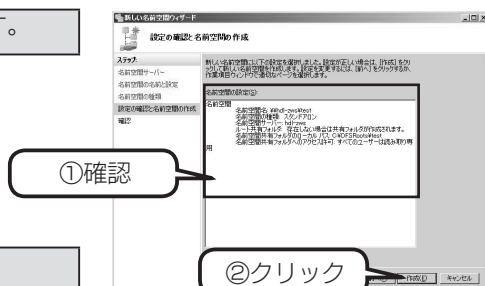
1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2	[役割] を選択し、[役割サービス] の [DFS 名前空間] の状態を確認します。 ●「インストール済み」と表示されている場合は、以下の【名前空間を作成する】へお進みください。 ●「インストールされていません」と表示されている場合は、右側の［役割サービスの追加］をクリックし、［DFS 名前空間］をインストールしてから、以下の【名前空間を作成する】へお進みください。

名前空間を作成する

1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2	[役割]→[ファイルサービス]→[ＤＦＳの管理]→[名前空間] を選択します。

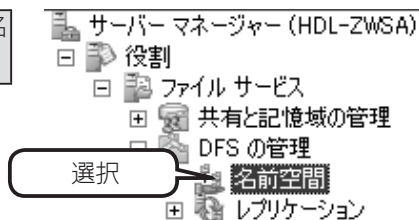
3	[操作] ウィンドウの［新しい名前空間］をクリックします。 [新しい名前空間ウィザード] 画面が表示されます。

4	［サーバー］に名前空間サーバーになるコンピューター名を入力し、［次へ］ボタンをクリックます。

5	［名前］に名前空間ルート名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

6	[ドメインベースの名前空間] または [スタンドアロンの名前空間] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

7	内容を確認し、［作成] ボタンをクリックします。

8	［閉じる］ボタンをクリックします。

以上で名前空間の作成は完了です。

名前空間フォルダーを作成する

1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2	[役割] → [ファイルサービス] → [ＤＦＳの管理] → [名前空間] を選択します。

3	[名前空間] ウィンドウの［《名前空間ルート名》］をクリックし、[操作] ウィンドウの［新しいフォルダー］をクリックします。

4	［名前］に名前空間フォルダーの仮想的なフォルダー名を入力し、［追加］ボタンをクリックします。

5	［フォルダーターゲットへのパス］にフォルダーターゲットへの UNC パスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。

以上で名前空間フォルダーの作成は完了です。

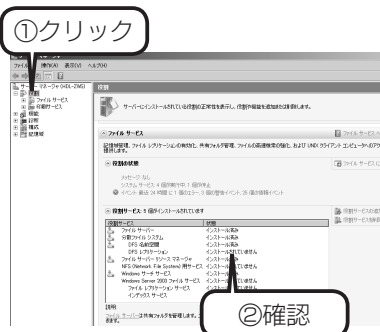
DFS レプリケーションを設定する

ご注意

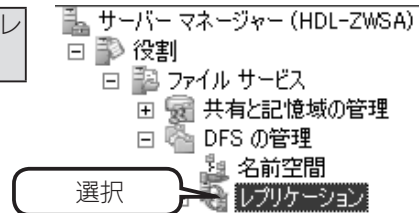
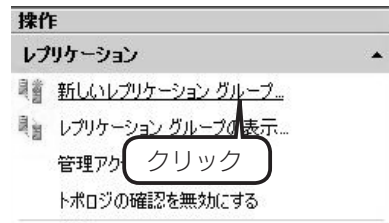
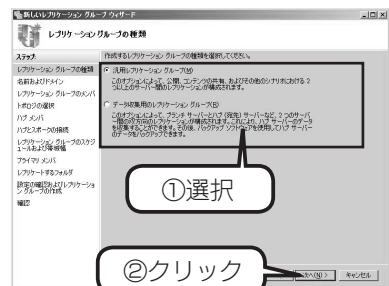
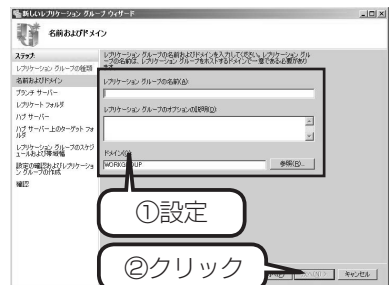
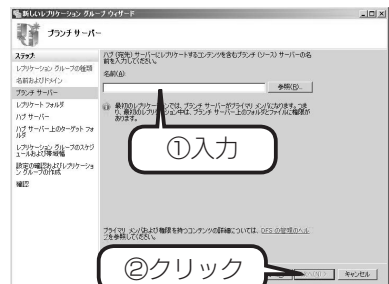
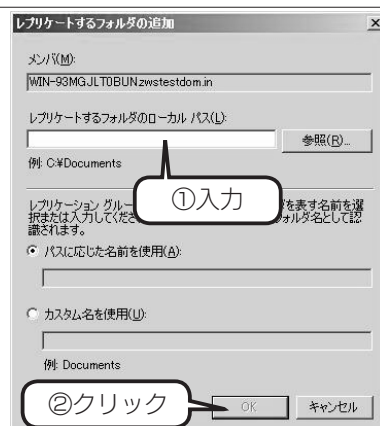
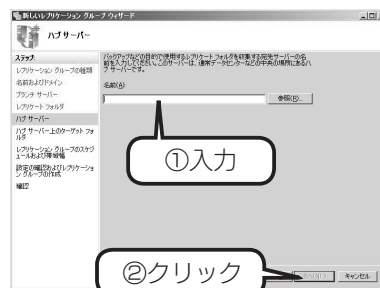
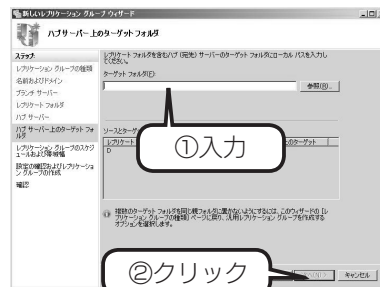
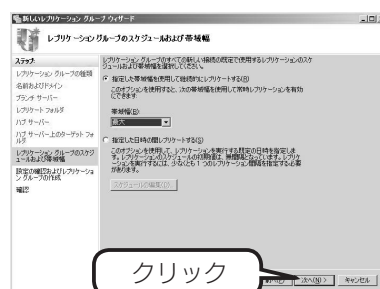
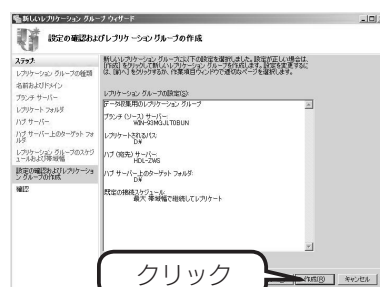
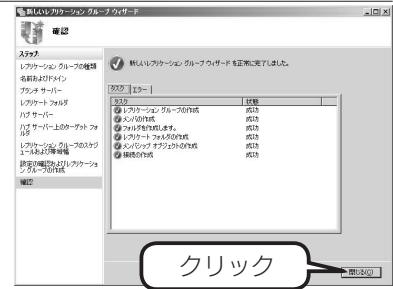
- DFS レプリケーション（DFS-R）機能は、本製品同士のみでは利用できません。以下の環境が必要になります。
  ① Windows Server 2003 R2 以降の Active Directory 環境に参加していること。
  ②レプリケーショングループのメンバー（本製品）が、同一フォレストにあること。

● DFS レプリケーションをインストールする

1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2	[役割] を選択し、[役割サービス] の [DFS レプリケーション] の状態を確認します。 ●「インストール済み」と表示されている場合は、以下の「DFS レプリケーションの設定」にお進みください。 ●「インストールされていません」と表示されている場合は、右側の [役割サービスの追加] をクリックし、「DFS レプリケーション」をインストールしてから、以下の「DFS レプリケーションの設定」にお進みください。

● DFS レプリケーションを設定する

1	[スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2	[役割]→[ファイルサービス]→[ＤＦＳの管理]→[レプリケーション]を選択します。

3	[操作] ウィンドウの [新しいレプリケーショングループ] をクリックします。

4	・レプリケーションを行うファイルサーバーが2台の場合は、[データ収集用のレプリケーショングループ] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。 ・レプリケーションを行うファイルサーバーが 2 台以上ある場合は、[汎用レプリケーショングループ] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。 ※画面例では、[データ収集用のレプリケーショングループ] を選択します。

5	[レプリケーショングループの名前] にレプリケーショングループの名前を任意で入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

6	[名前] にレプリケーション開始時に元となるファイルサーバーの名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

7 ［レプリケートするフォルダーのローカルパス］にレプリケートするフォルダーのパスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。

8 ［名前］にもう 1 台のファイルサーバーの名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

9 ［ターゲットフォルダー］にもう 1 台のファイルサーバーでレプリケートするフォルダーのパスを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

10 WAN 接続などの帯域幅に余裕がない場合、帯域幅の調整とレプリケーションの実行スケジュールを設定することができます。
必要に応じて設定し、[次へ] ボタンをクリックします。

11 内容を確認し、［作成］ボタンをクリックします。

12 ［閉じる］ボタンをクリックします。

以上で DFS レプリケーションの設定は完了です。

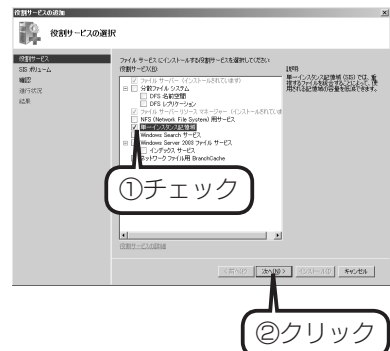
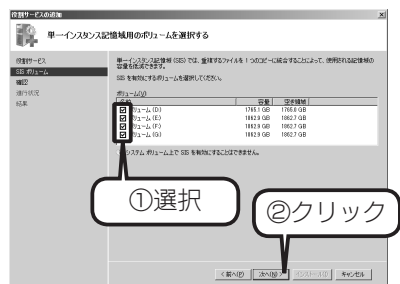
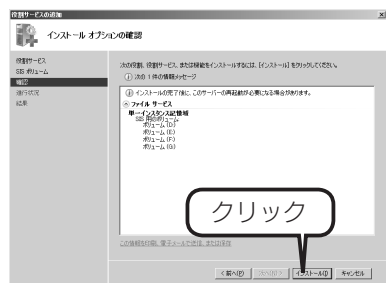
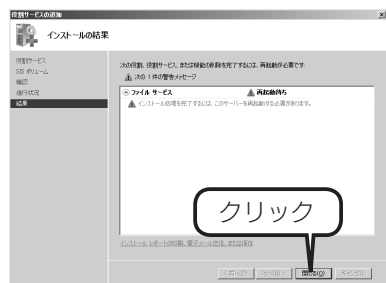
単一インスタンス記憶域（SIS）設定

Windows が重複するファイルを検出し、ファイルの実体を 1 つだけ残して他はリンク情報として配置し直す機能です。

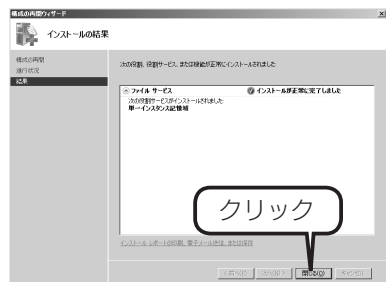
この機能により、例えばデジカメ写真をカメラから削除することなく次々 NAS にアップロードした場合でも、重複するデータを自動的に整理しますので、NAS の容量を節約することができます。

1 [スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャー] をクリックします。

2 [役割] をクリックし、ファイルサービス内の [役割サービスの追加] をクリックします。

3 ［単一インスタンス記憶域］にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。

4	単一インスタンス記憶域機能を利用するボリュームを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。 ※システムボリューム（C:）は指定できません。 ※ NTFS 以外のフォーマット形式のボリュームは指定できません。

5	[インストール] ボタンをクリックします。 インストールを開始します。しばらくお待ちください。

6	右の画面が表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックします。 再起動を要求されますので、[はい] をクリックします。 再起動後、自動でサーバーマネージャーが起動し、インストールの最終処理を行います。

7	右の画面が表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックします。

以上で設定は完了です。

資料

カートリッジの交換方法

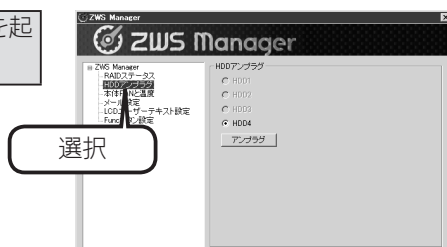
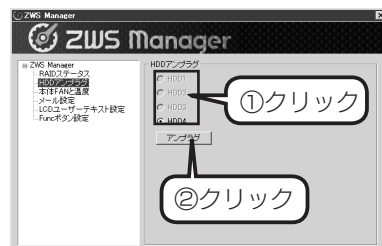
本製品の電源が入っている状態で、HDD アンプラグを行うことで、障害が発生したカートリッジの交換ができます。障害が発生したハードディスクは、［HDD］ランプが赤点灯します。［HDD］ランプをご確認の上、以下の説明通りに行ってください。
本製品に対する指定容量のカートリッジについては、【オプション品について】（8 ページ）をご確認ください。

ご注意

- RAID 構成が崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。そのため、万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。
- カートリッジ（ハードディスク）は、障害発生時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID 構成が崩壊しすべてのデータを失い、修復不能な状態となる危険性があります。（各 RAID モードの仕組みについては、【RAID 設定】（38 ページ）をご覧ください。）
- マルチディスクモード時にカートリッジを交換する場合、交換後カートリッジのフォーマットが必要になります。フォーマット手順については、【ボリュームのフォーマット】（48 ページ）をご覧ください。

[ステップ 1]　HDD アンプラグを行う

「ZWS Manager」で「HDD アンプラグ」を行います。

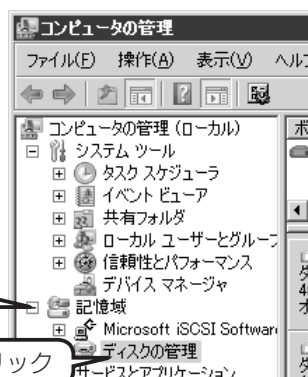
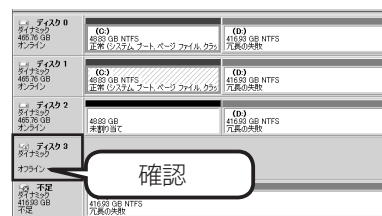
1	タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[HDD アンプラグ] を選択します。

2	［HDD］ランプが赤点灯している障害が発生したハードディスク番号を選択し、[アンプラグ] ボタンをクリックします。 ※画面は、HDD4 が障害発生した場合の例です。

ご注意

- RAID5 の場合、一度に取り外しできるハードディスクの数は 1 台のみです。
  2 台以上取り外すと RAID が崩壊し、保存されているデータを失うことがあります。

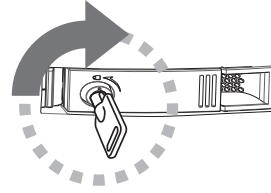
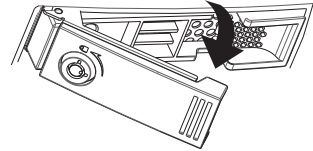
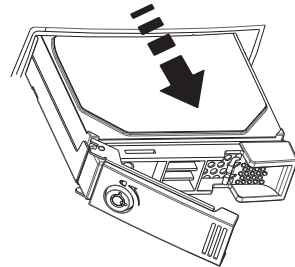
ご注意

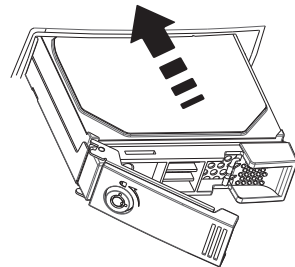
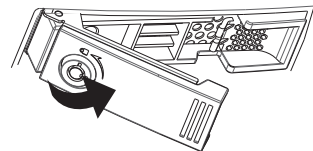
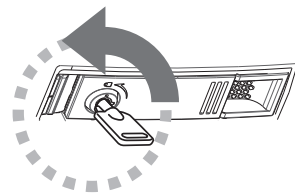
●右のような画面が表示された場合、［アンプラグ］処理ができていません。本製品の電源を切り、【[ステップ 2]　カートリッジを外す】（71 ページ）にお進みください。

3	順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピューターの管理] をクリックします。

4	順に [記憶域] → [ディスクの管理] をクリックします。

5	手順 2 で [アンプラグ] 処理を行った障害の発生したハードディスクが、オフラインになっていることを確認します。

次に、カートリッジを外します。次ページをご覧ください。

[ステップ 2]　カートリッジを外す

1	添付のロックキーを [カートリッジ固定ロック] に合わせ横向きに挿し、時計回りにまわして、[UNLOCK] にします。(ロックキーは、縦向きになります。)

2	取り外すカートリッジの着脱レバーを上にあげます。

3	カートリッジを手前に引いて、取り出します。

[ステップ 3]　カートリッジを取り付ける

1	カートリッジをスロットの奥まで挿入します。

2	着脱レバーを " カチッ " と音がなるまで下におろし、本製品に取り付けます。

3	添付のロックキーを [カートリッジ固定ロック] に合わせ縦向きに挿し、反時計回りにまわして、[LOCK] にします。(ロックキーは、横向きになります。)

以上で交換は終了です。

取り付け完了後、ZWS Manager の [自動再構成] が [有効] に設定されている場合は、自動的に RAID の再構築を開始します。マルチディスクモード時は、交換したハードディスクを初期化する必要があります。(【ステップ3　ハードディスクを初期化する】（40 ページ）参照)

出荷時状態に戻す

ご注意

●システムリカバリーを行うと、本製品のシステムドライブ（C:）は完全に出荷時の状態に戻ります。
保存されていたデータや、設定情報はすべて失われますので、必要なデータや設定情報は必ずバックアップを行ってください。
● RAID モードまたはマルチディスクモードでリカバリーする場合は、すべての内蔵ドライブを消去した後にリカバリーが実行されますので、バックアップも行ってください。
●システムリカバリー後、システム領域の再構築が行われます。
●システムリカバリーを行う場合は、必ずすべてのカートリッジが取り付けられた状態で行ってください。

ステップ 1　準備する

1	次の機材をご用意ください。 ・ディスプレイ ･USB キーボード ･USB 接続の DVD ドライブ（USB 2.0 対応のもの） ・本製品添付のサポート DVD-ROM

2	本製品の VGA コネクターにディスプレイを接続します。

3	本製品の USB 2.0 ポートに USB キーボードを接続します。

4	本製品の USB 2.0 ポートに USB 接続の DVD ドライブを接続します。 上記以外の、USB ハードディスクおよび eSATA ハードディスクは接続しないでください。

次ページの【ステップ2】へお進みください。

ステップ２　出荷時設定に戻す

1	DVD ドライブにサポート DVD-ROM を挿入し、本製品の電源を入れます。

参考

●リカバリープログラムが起動しない場合、BIOS 設定の変更が必要な場合があります。
以下の手順で BIOS 設定を変更してください。
①本製品の電源投入直後より、[F2] キーを押しつづけて、BIOS 設定画面を起動します。
②カーソルキーで [ブート] を選択します。
③ [USB CD:] にカーソルを合わせ、[＋] キーで [ATA HDD ｘ] より上位に設定します。
④ F10 キーを押し BIOS 設定を保存して終了します。
⑤ ステップ 2 手順 1 より再度実行してください。

2	リカバリープログラムが起動し、使用許諾が表示されます。 キーボードの 1 を入力し [Enter] キーを押します。 (「1-　上記を承諾してリカバリーを実行する」を選択します。)

3	「本当にリカバリーを実行してよろしいですか？ (yes/no)」で、[yes] と入力して、[Enter] キーを押します。 →リカバリーが開始されます。システムのリカバリーには 15 分～ 30 分程度必要です。

4	「リカバリーが正常に完了しました。サポート DVD を抜いてください。 何かキーを押すと再起動します。」 と表示されたら、システムリカバリーは完了です。サポート DVD-ROM を本製品から取り外し、何かキーを押します。 →本製品が再起動します。 この後、システム領域にリビルドが行われます。(リビルド中は本製品の操作・動作が遅くなります。)

ランプの状態

カテゴリ	STATUS	HDD	ブザー※2	動作内容	対処
通常稼動時	緑点灯	緑点灯	なし	ー	ー
RAID 再構築	緑点滅	緑点滅	ピロッ	RAID 再構築中の時	RAID を再構築中です。再構築が完了するまで HDD の抜き差しを行わないでください。
エラー	赤点滅	該当 HDD 赤点灯	ピッピッ、ピッピッ …	デグレード発生時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
	赤点滅	全 HDD 赤点灯	ピーポー、 ピーポー …	RAID 崩壊時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。ボリュームに対してチェックディスクを実行し、ファイルシステムに問題がないことを確認してください。ログ・メールより構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。ボリュームにアクセスできなくなった場合は、ボリュームを再構築してください。
	緑点灯	認識した HDD のみ緑点灯	ピッ、ピッ、ピッ、ピッ …	起動 HDD がない時	起動 HDD が接続されていません。HDD が正常に接続されていることを確認してください。
	赤点灯	緑点灯	なし	温度異常の時	設置環境を確認し、FAN からの排熱が逃げ易い環境であることを確認してください。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたら FAN が正常に稼動していることを確認してください。

※　RAID 状態に変化があったときにブザーが鳴ります。ブザー音が鳴った場合、[Func.] ボタンを押す、または、「ZWS Manager」上で [ブザー OFF] をクリックするとブザーが停止します。

ログ、メール一覧

ログ・メール内容	メールタイトル	概要	対処
内蔵スロット x のディスクにエラーが検出されました。 システムを再起動しても再度エラーが検出される場合は、ディスクに致命的なエラーが発生している可能性があるため、至急交換してください。 (x は、1 ～ 4)	ディスクエラー	内蔵スロット x のディスクが「エラー」状態になった。 (x は、1 ～ 4)	至急システムボリュームおよびデータボリュームのバックアップを取ってください。 システムボリュームおよびデータボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 システムを再起動可能な場合は、再起動を行ってエラーが消えるか確認してください。 内蔵スロット x のディスクを交換してください。 ZWS Manager からアンプラグできない場合は、システムの電源を切ってから交換してください。(x は、1 ～ 4)
システムボリューム上にエラーが検出されました。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「失敗」となった。 システムボリュームの情報が「危険」となった。	至急システムボリュームのバックアップを取ってください。 システムボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。 システムが起動不能となった場合は、システムのリストアを行ってください。
データボリューム上にエラーが検出されました。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「失敗」となった。 システムボリュームの情報が「危険」となった。	至急データボリュームのバックアップを取ってください。 データボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。 データボリュームにアクセスできなくなった場合は、データボリュームを再構築してください。
システムボリュームの冗長性が失われています。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「冗長の失敗」となった。	至急システムボリュームのバックアップを取ってください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
データボリュームの冗長性が失われています。	ボリュームエラー	データボリュームの状態が「冗長の失敗」となった。	至急データボリュームのバックアップを取ってください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
システムボリュームの再構築が開始されました。	ボリューム情報	システムボリュームの状態が「再構築中」となった	システムボリュームの状況を確認してください。
データボリュームの再構築が開始されました。	ボリューム情報	データボリュームの状態が「再構築中」となった。	データボリュームの状況を確認してください。
システムボリュームの再構築が完了しました。	ボリューム情報	システムボリュームの状態が (「正常」以外の状態から)「正常」となった。	システムボリュームの状況を確認してください。
データボリュームの再構築が完了しました。	ボリューム情報	データボリュームの状態が (「正常」以外の状態から)「正常」となった。	データボリュームの状況を確認してください。
ZWS RAID Manager で管理できない状態です。	(メールなし)	内蔵ディスク上にボリュームが 3 個以上存在する。	内蔵ディスク上にシステムボリュームと、データボリュームが 1 個だけ存在する状態にしてください。
本体内部の温度が仕様範囲を超えたため本体をシャットダウンしました。	温度異常	システム温度が仕様範囲を超えた。	設置環境を確認し、FAN からの排熱が逃げ易い環境であることを確認して下さい。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたら FAN が正常に稼動していることを確認してください。
Func ボタンが押され登録されているコマンド xxx が実行されました。(x x x は登録したコマンド)	(メールなし)	Func. ボタンが有効で、Func. ボタンが押された。	Func ボタン機能が有効の場合は、Func . ボタンを 3 秒以上押すと登録したコマンドが実行されますので、登録されたコマンドが実行されたことを確認してください。

はじめに 初期設定 詳細設定 資料

ZWS Manager

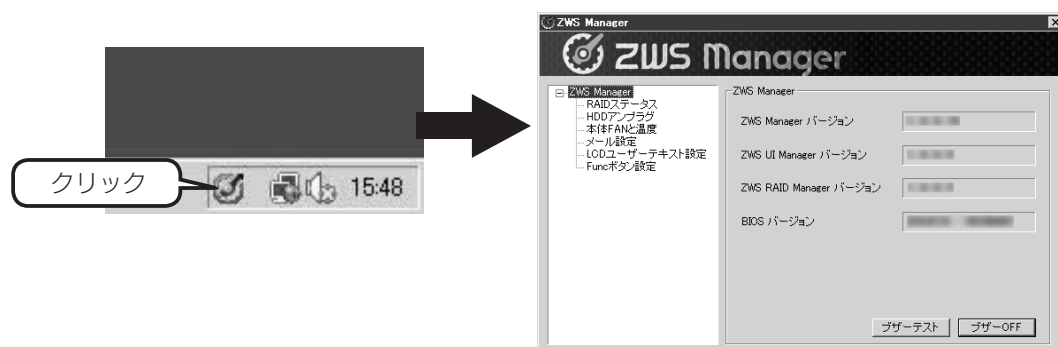
ZWS Manager は本製品の RAID 管理、温度管理、その他設定を行う管理ソフトです。
ZWS Manager は本製品の起動と同時に自動的に起動します。初期状態はタスクトレイ上に表示されています。

ご注意

● ZWS Manager は Administrator の権限のユーザーでログオンした場合のみ起動できます。

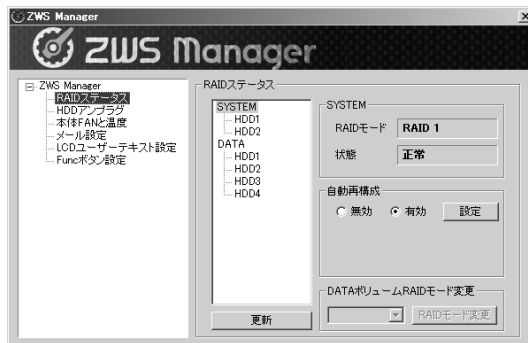
ZWS Manager メイン画面の表示方法

1	タスクトレイのアイコンをクリックします。 → ZWS Manager のメイン画面が表示されます。画面左側が項目、右側が詳細情報ビューとなります。

▼メイン画面

▼ ZWS Manager … メイン画面です。各種バージョンを表示します。

ZWS Manager バージョン	ZWS Manager のバージョンを表示します。
ZWS UI Manager バージョン	ZWS UI Manager のバージョンを表示します。
ZWS RAID Manager バージョン	ZWS RAID Manager のバージョンを表示します。
BIOS バージョン	製品の BIOS バージョンを表示します。

ZWS Manager 画面一覧

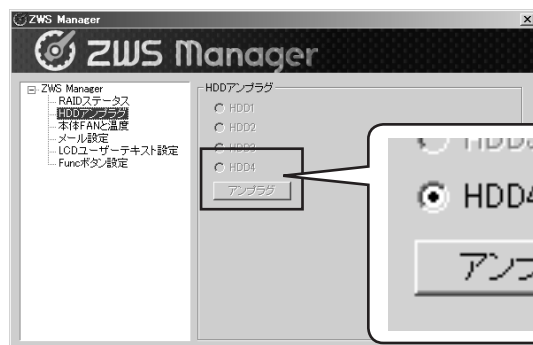
▼ RAID ステータス … RAID 設定の実行、RAID 情報が表示されます。

SYSTEM	システムに使用しているハードディスクを表示します。
DATA	データ領域に使用しているハードディスクを表示します。
RAID モード	現在設定されている RAID モードを表示します。
状態	現在の RAID の状態を表示します。
自動再構成	自動再構成の有効 / 無効を設定します。 有効に設定すると、故障ハードディスク（カートリッジ）の交換時に自動的に再構築を行います。 無効に設定すると、故障ハードディスク（カートリッジ）の交換をしても自動再構築を行いません。 RAID 構成に組み込む HDD にチェックをつけてから、[設定] ボタンをクリックすると、再構築を行います。 結果は RAID ステータス画面で確認します。(結果の反映まで数分必要な場合があります。)
RAID モード変更	データボリュームの RAID モードを変更・表示します。

マルチディスクモード時

HDD 交換後に RAID ステータスでハードディスクが認識されない場合

本製品の電源が入っている状態で、ハードディスクを交換後に、「ZWS Manager」の RAID ステータスでハードディスクが認識されず、リビルドが開始できない場合があります。その場合は、「RAID ステータス」画面の [更新] ボタンをクリックしてください。

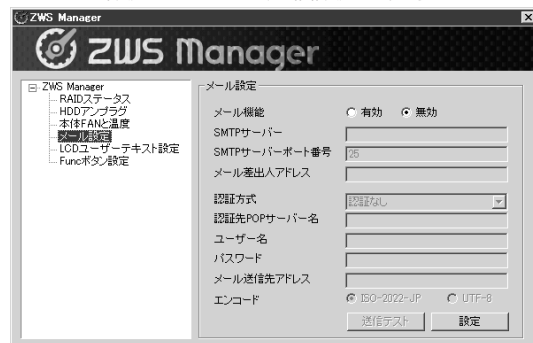
※「RAID ステータス」画面の反映まで、数分程度かかります。

▼ HDD アンプラグ … 障害が発生したハードディスクを指定し、[アンプラグ] 処理を行います。

障害が発生したハードディスク番号以外は、選択できません。

※吹き出しは、HDD4 が障害発生した場合の表示例です。

▼本体 FAN と温度 … FAN の回転数と本体温度を表示します。

FAN 回転数	現在の FAN の回転数を表示します。
本体温度	現在の本体の温度を表示します。

▼メール設定 … メール送信設定を表示します。

メール機能	メール機能の有効 / 無効を設定します。
SMTP サーバー	SMTP サーバーを入力します。
SMTP サーバーポート番号	SMTP サーバーポート番号を入力します。
メール差出人アドレス	差出人として表示するメールアドレスを入力します。
認証方式	認証方式を選択します。
認証 POP サーバー名	選択した [認証方式] に応じた認証 POP サーバー名を入力します。
ユーザー名	選択した [認証方式] に応じたユーザー名を入力します。
パスワード	選択した [認証方式] に応じたパスワードを入力します。
メール送信先アドレス	送信先のメールアドレスを入力します。
エンコード	エンコード方式を [ISO-2022-JP] か [UTF-8] から選択します。

▼ Func ボタン設定 … Func. ボタンの設定を表示します。

Func ボタン機能	Func ボタン機能の有効 / 無効を設定します。
アプリケーション	Func. ボタンを押すことにより、起動するアプリケーションを設定します。

仕様

シリーズ			HDL-ZWTCR2 シリーズ
LAN	転送規格		IEEE 802.3ab、IEEE802.3u、IEEE802.3 (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)
	最大転送速度		1000/100/10Mbps
	コネクター		RJ-45 × 2
	アクセス方法		CSMA/CD
	MDI/MDI-X		自動切換
	適合コード		UTP カテゴリー 5e 以上、100m 以下
eSATA ホスト	転送規格		SATA I / SATA II (NCQ 対応)
	最大転送速度		3.0Gbps
	コネクター		eSATA コネクター× 2
USB ホスト	転送規格		USB 2.0(1.1 含む) / USB 3.0
	最大転送速度		480Mbps / 5Gbps
	コネクター		USB 2.0 用 A コネクター× 5 / USB 3.0 用 A コネクター× 2
電源仕様	定格電圧		AC100V(50/60Hz)
	消費電力 (電流)		77W(TYP)
動作環境	使用温湿度		0 ～ 40℃　20 ～ 80%（結露なきこと)
物理仕様	外形寸法※		430 mm(W)　×　484 mm(D)　×　44 mm(H)
	質量	本体	約 9.5kg
		マウントブラケット	約 1.7kg

※ 突起部除く

出荷時設定

コンピューター名	HDL-ZWTCR
ワークグループ名	WORKGROUP
IP アドレス	自動取得
DNS サーバーアドレス	自動取得
RAID 状態	RAID 5

アフターサービス

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

お問い合わせについて

お問い合わせいただく前に、**以下をご確認ください**

弊社サポートページのQ&Aを参照
➡ **http://www.iodata.jp/support/**

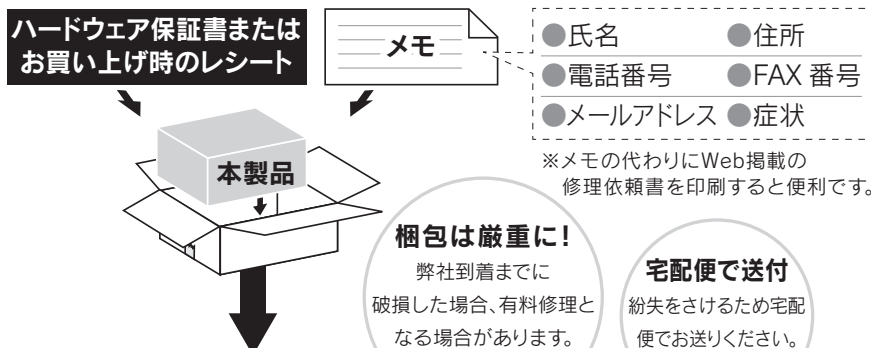
最新のソフトウェアをダウンロード
➡ **http://www.iodata.jp/lib/**

それでも解決できない場合は、**サポートセンターへ**

電話： 050-3116-3025
※受付時間　９：００～１７：００　月～金曜日（祝祭日をのぞく）
FAX： 076-260-3360
インターネット： http://www.iodata.jp/support/

<ご用意いただく情報>
製品情報（製品名、シリアル番号など）、パソコンや接続機器の情報（型番、OSなど）

修理について

修理を依頼される場合は、以下の要領でお送りください。

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
株式会社　アイ・オー・データ機器　修理センター 宛

- 送料は、発送時はお客様ご負担、返送時は弊社負担とさせていただいております。
- 有料修理となった場合は先に見積をご案内いたします。（見積無料）
  金額のご了承をいただいてから、修理をおこないます。
- 内部にデータが入っている製品の場合、厳密な検査のため、内部データは消去されます。何卒、ご了承ください。
  バックアップ可能な場合は、お送りいただく前にバックアップをおこなってください。弊社修理センターではデータの修復はおこなっておりません。
- お客様が貼られたシール等は、修理時に失われる場合があります。
- 保証内容については、ハードウェア保証規定に記載されています。
- 修理品をお送りになる前に製品名とシリアル番号（S/N）を控えておいてください。

修理について詳しくは… **http://www.iodata.jp/support/after/**

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

MICROSOFT WINDOWS STORAGE SERVER 2008 R2 STANDARD

本マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項 (以下「本ライセンス条項」といいます) は、お客様と以下の当事者との契約を構成します。

• ソフトウェア (以下「本ソフトウェア」といいます) をサーバーと共に頒布するサーバー製造業者 (以下「製造業者」といいます)、または

• 本ソフトウェアをサーバーと共に頒布するソフトウェア インストール業者 (以下「インストール業者」といいます)

以下のライセンス条項をお読みください。本ライセンス条項は、上記のソフトウェアおよびソフトウェアが記録されたメディア (以下総称して「本ソフトウェア」といいます) に適用されます。本ソフトウェアに印刷されたライセンス条項が付属している場合は、印刷されたライセンス条項が、画面に表示される条項より優先されます。また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。

• 更新プログラム
• 追加ソフトウェア
• インターネット ベースのサービス
• サポート サービス

なお、これらの製品に別途ライセンス条項が付属している場合には、当該ライセンス条項が適用されるものとします。お客様が更新プログラムまたは追加ソフトウェアをマイクロソフトから直接入手された場合は、製造業者またはインストール業者ではなく、マイクロソフトが当該更新プログラムまたは追加ソフトウェアのライセンスを付与します。

本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合、本ソフトウェアを使用することはできません。この場合、製造業者またはインストール業者に問い合わせて、お支払いいただいた金額の払い戻しに関する方針を確認してください。

以下に説明するように、本ソフトウェアを使用することにより、アクティベーション中、検証中、およびインターネットベースのサービスにおいて、特定のコンピューター情報が送信されることに、お客様が同意されたものとします。

お客様がこれらのライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には、取得する各ソフトウェア ライセンスにつき以下が許諾されます。

1. 総則。

a. ソフトウェア。本ソフトウェアは次の製品で構成されます。

• サーバー ソフトウェア
• サーバー ソフトウェアによって直接使用されるのみの追加ソフトウェア、または他の追加ソフトウェアを介して間接的に使用される追加ソフトウェア

b. ライセンスの形態。本ソフトウェアのライセンスは以下の形態に基づきます。

• お客様が実行するサーバー ソフトウェアのインスタンス数

c. ライセンスに関する用語。

• インスタンス。お客様は、ソフトウェアのセットアップまたはインストール手順を実行することにより、ソフトウェアの「インスタンス」を作成したものとみなされます。また、既存のインスタンスを複製することによっても、ソフトウェアのインスタンスを作成したものとみなされます。本ライセンス条項に含まれる本ソフトウェアに関する記述は、本ソフトウェアの「インスタンス」も含まれます。

• インスタンスの実行。お客様は、ソフトウェアのインスタンスをメモリに読み込み、その 1 つ以上の命令を実行することにより、「インスタンスを実行」したものとみなされます。実行されると、インスタンスはそれがメモリから削除されるまで実行中であるとみなされます。その指示が引き続き実行されているか否かには左右されません。

• オペレーティング システム環境。「オペレーティング システム環境」とは次のように定義されます。

• 別個のコンピューター (プライマリ コンピューター名などの一意の識別子) または別個の管理者権限を識別できる、オペレーティング システム インスタンスの全部または一部、仮想 (またはエミュレートされた) オペレーティング システム インスタンスの全部または一部

• (該当する場合は) 上記のオペレーティング システム インスタンスまたはその一部で実行されるように構成されているアプリケーションのインスタンス

オペレーティング システム環境には、物理環境と仮想環境の 2 種類があります。物理的オペレーティング システム環境は、物理的ハードウェア システム上で直接動作するように構成されています。ハードウェア仮想化ソフトウェア (Microsoft Virtual Server または同様のテクノロジなど) を実行するため、またはハードウェア仮想化サービス (Microsoft 仮想化テクノロジまたは同様のテクノロジなど) を提供するために使用されるオペレーティング システム インスタンスは、物理的オペレーティング システム環境の一部とみなされます。仮想オペレーティング システム環境は、仮想的 (またはエミュレートされた) ハードウェア システム上で動作するように構成されています。物理的ハードウェア システムには、次のいずれかまたは両方が含まれます。

• 1 つの物理的オペレーティング システム環境
• 1 つ以上の仮想オペレーティング システム環境

• サーバー。サーバーとは、サーバー ソフトウェアを実行することのできる物理的ハードウェア システムをいいます。ハードウェア パーティションまたはブレードは、別個の物理的ハードウェア システムとみなされます。

• ライセンスの割り当て。ライセンスを割り当てるとは、1 つのサーバーまたはユーザーに当該ライセンスを指定することを意味します。

2. 使用に関する権利。

a. 本サーバーへのライセンスの割り当て。本ソフトウェアのライセンスは、お客様が本ソフトウェアを取得する際に使用したサーバーに永続的に割り当てられます。本ソフトウェアをハードウェア パーティション上で実行する場合は、当該パーティションが、ライセンスを割り当てるサーバーとなります。そのサーバーは、その特定のライセンスに関して「ライセンス取得済みのサーバー」とみなされます。同じサーバーに別のソフトウェア ライセンスを割り当てることはできますが、同じライセンスを複数のサーバーに割り当てることはできません。

b. サーバー ソフトウェアのインスタンスの実行。

i. お客様は、ライセンス取得済みサーバー上の 1 つの物理的オペレーティング システム環境および 1 つの仮想オペレーティング システム環境において 1 度に 1 つのインスタンスを実行することができます。

ii. 許可された 2 つのインスタンスを同時に実行する場合、物理的オペレーティング システム環境において実行されているサーバー ソフトウェアのインスタンスは、次の目的に限り使用することができます。

• ハードウェア仮想化ソフトウェアを実行する
• ハードウェア仮想化サービスを提供する
• ライセンス取得済みのサーバー上でオペレーティング システム環境を管理および操作するためのソフトウェアを実行する

c. 追加ソフトウェアのインスタンスの実行。お客様は、任意の数のサーバー上の物理的または仮想オペレーティング システム環境において、以下に記載する追加ソフトウェアの任意の数のインスタンスを実行または使用することができます。追加ソフトウェアは、本サーバー ソフトウェアによってのみ直接または他の追加ソフトウェアを介して間接的に使用できます。

• AD Migration Tool
• FRS Monitoring Tools
• Remote Desktop Connection Client
• RSAT Client

d. サーバーまたはストレージ メディア上でのインスタンスの作成と格納。お客様には、取得される各ソフトウェア ライセンス 1 つにつき、以下の追加の権利が許諾されます。

• お客様は、サーバー ソフトウェアおよび追加ソフトウェアについて、任意の数のインスタンスを作成することができます。

• お客様は、本サーバー ソフトウェアおよび追加ソフトウェアのインスタンスをお客様の任意のサーバーまたはストレージ メディアに格納することができます。

• お客様は、前述の本ソフトウェア ライセンスに基づいて本サーバー ソフトウェアのインスタンスを実行する権利を行使するためにのみ、本サーバー ソフトウェアおよび追加ソフトウェアのインスタンスを作成して格納することができます (したがって、第三者にインスタンスを再頒布することはできません)。

e. 含まれるマイクロソフト製プログラム。本ソフトウェアには、他のマイクロソフト製プログラムも含まれています。お客様によるこれらのプログラムの使用には、本ライセンス条項が適用されます。

f. フォント コンポーネント。本ソフトウェアの実行中、お客様は本ソフトウェアに付属のフォントを使用してコンテンツを表示および印刷することができます。以下の操作のみが許可されます。

• フォントの埋め込みに関する制限の下で許容される範囲でコンテンツにフォントを埋め込む。
• コンテンツを印刷するために、フォントをプリンターまたはその他の出力デバイスに一時的にダウンロードする。

g. アイコン、画像、および音声。本ソフトウェア作動中、本ソフトウェアのアイコン、イメージ、サウンド、およびメディアを使用するこ

とはできますが、これらを共有することはできません。
3.　追加のライセンス条件および追加の使用権。
a.　特定用途。製造業者またはインストール業者は、本サーバーを特定用途向けに設計しました。お客様は、当該用途に限り本ソフトウェアを使用することができます。
お客様は、本サーバーの管理、パフォーマンス強化、予防保守、または無料のデータ ストレージ機能の提供のみを目的として使用するユーティリティまたは同様のソフトウェアを除き、追加のソフトウェア プログラムまたは機能をサポートするために本ソフトウェアを使用することはできません。
b.　ソフトウェアの使用制限。お客様は、本サーバー ソフトウェアの以下の機能を使用することは許諾されていません。
i.　Active Directory。お客様は、本サーバー ソフトウェアをドメイン コントローラーとして使用したり、または DCPromo.exe を使用したりすることはできません。
ii.　ネットワーク インフラストラクチャ サービス。お客様は、サーバー ネットワーク インフラストラクチャのサポートに必要な、本サーバー ソフトウェアのいかなる機能も使用することはできません。たとえば、お客様は、ルーティングとリモート アクセス サービス (RRAS) または Windows インターネット ネーム サービス (WINS) を使用することはできません。ただし、お客様は、動的ホスト構成プロトコル (DHCP)、ドメイン ネーム システム (DNS)、および読み取り専用ドメイン コントローラー (RODC) サーバー機能のほか、DNS クライアントまたは DHCP クライアントなどの任意のネットワーク インフラストラクチャ クライアント機能を使用することができます。
iii.　ターミナル サービス。この機能を使用すると、複数のサーバーで本サーバー ソフトウェアを使用したり、本サーバー ソフトウェアと共に使用する他のソフトウェアで同様のサービスを提供したりできます。ターミナル サービスは、本サーバー ソフトウェアをリモート管理モードで管理するために必要な範囲においてのみ使用できます。
iv.　ネットワーク負荷分散サービス。
v.　サーバーの役割。お客様は、以下の機能を使用することはできません。

- Active Directory 証明書サービス
- Active Directory ドメイン サービス
- Active Directory フェデレーション サービス
- Active Directory Management サービス
- アプリケーション サーバー
- ネットワーク ポリシーおよびアクセス サービス
- UDDI サービス
- Windows 導入サービス
- リモート デスクトップ サービス
- Windows Server Update Services

c.　本ソフトウェアでサポートされる機能の制限。製造業者またはインストール業者は、本サーバーに提供およびインストールされている基本機能のみをサポートするために、本サーバー ソフトウェアの使用をお客様に許諾します。お客様は、本サーバーを使用して以下を実行またはサポートすることは許諾されていません。
i.　Microsoft SQL Server 2008 Express Edition などの非エンタープライズ データベース エンジンを除く、エンタープライズ データベース ソフトウェア (Microsoft SQL Server など)。本サーバー ソフトウェアは、製造業者またはインストール業者が本サーバーを設計した特定用途の一部として本サーバー ソフトウェアをサポートするためにのみ統合および使用されている、エンタープライズ データベース エンジン (Microsoft SQL Server など) を実行またはサポートすることもできます。
ii.　エンタープライズ リソース プランニング (ERP) ソフトウェア。
iii.　メッセージングまたはエンタープライズ メール。
iv.　Microsoft Exchange または Microsoft SharePoint Portal Server。
v.　チーム コラボレーション ソフトウェア。および
vi.　予定、会議、およびその他の予定表アイテムを処理する Web ベースの時間管理アプリケーション。
これらの制限は、上記に示すソフトウェアのデータ管理 (ストレージおよびバックアップ機能の提供など) のために本サーバーを使用することを制限しません。
d.　Windows Server CAL は不要。本ライセンス条項に基づいて許諾されている Windows Storage Server ソフトウェアの機能にアクセスしたり、当該機能を使用したりするサーバーには、クライアント アクセス ライセンス (CAL) は必要ありません。マイクロソフト製品の CAL を取得しても、お客様には、本ライセンス条項により許諾されていない本サーバー ソフトウェアの機能を使用する権利は付与されません。
e.　Windows Server 2008 R2 Rights Management Services へのアクセス。お客様は、Windows Server 2008 R2 Rights Management Services の機能に直接または間接的にアクセスするユーザーが使用するユーザー アカウントごとに、Windows Server 2008 Rights Management Services CAL を取得する必要があります。
4.　アクティベーションの義務。
アクティベーションにより、ソフトウェアの使用が特定のサーバーに関連付けられます。アクティベーション中、本ソフトウェアにより本ソフトウェアおよび当該サーバーに関する情報がマイクロソフトに送信されます。この情報には、本ソフトウェアのバージョン、言語、プロダクト キーの他、サーバーのインターネット プロトコル アドレス、およびサーバーのハードウェア構成から派生した情報が含まれます。製造業者またはインストール業者は、お客様のために本ソフトウェアのアクティベーションを実行しています。詳細については、www.microsoft.com/piracy/mpa.aspx をご参照ください。本ソフトウェアを使用することにより、お客様はこうした情報の送信に同意されたものとします。サーバーがインターネットに接続されている場合、本ソフトウェアはアクティベーションを行うためにマイクロソフトへ自動的に接続されます。本ソフトウェアのアクティベーションは、インターネットまたは電話により、手動で行うこともできます。その場合、インターネットおよび電話の通信料金が発生することがあります。お客様がコンピューターのハードウェア構成を変更した場合や、本ソフトウェアの設定を変更した場合には、本ソフトウェアのアクティベーションを再度行う必要が生じることがあります。
5.　検証。
a.　製造業者またはインストール業者がお客様のために本ソフトウェアのアクティベーションを実行した場合、お客様が本ソフトウェアを初めて使用するとき、アクティベーションを行うかどうかを確認するメッセージは表示されません。本ソフトウェアの検証機能は随時アップデートされることがあり、またお客様はダウンロードを実行するよう求められる場合があります。検証では、本ソフトウェアがアクティベーションされており、正式にライセンス供与されていることを確認します。お客様は、検証によって本ソフトウェアの特定機能を使用したり、追加的便宜を得たりすることができます。詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=39157 をご参照ください。
b.　有効性の確認中、本ソフトウェアは、ソフトウェアとサーバーに関する情報をマイクロソフトに送信します。こうした情報の中には、ソフトウェアのバージョンとプロダクト キー、およびサーバーのインターネット プロトコル (IP) アドレスが含まれています。マイクロソフトは、これらの情報を利用してお客様の特定またはお客様への連絡を行うことはありません。本ソフトウェアを使用することにより、お客様はこうした情報の送信に同意されたものとします。確認の詳細、および有効性の確認中に送信される情報の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=69500 をご参照ください。
c.　有効性の確認後に、本ソフトウェアに適切なライセンスが与えられていないことが判明した場合は、本ソフトウェアの機能に影響が出る可能性があります。たとえば、次のような可能性があります。

- ソフトウェアのアクティベーションを再度行う必要がある。または
- 適切にライセンスを取得したソフトウェアの複製を求めるアラームを受信する。

または、次のような場合があります。

- 本ソフトウェアの一部の機能を使用できないか、使い続けることができない。または
- マイクロソフトから特定の更新プログラムまたはアップグレードを取得できない。

d.　お客様は、マイクロソフトまたは正規マイクロソフト販売代理店からのみ、本ソフトウェアの更新プログラムまたはアップグレードを入手することができます。正規マイクロソフト販売代理店からの更新プログラムを入手する方法の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=69502 をご参照ください。
6.　インターネットベースのサービス。マイクロソフトは、本ソフトウェアについてインターネット ベースのサービスを提供します。
マイクロソフトは、いつでもこのサービスを変更または中止できるものとします。
a.　インターネットベースのサービスに関する同意。本ソフトウェアには、インターネットを介してマイクロソフトまたはサービス プロバイダーのコンピューター システムに接続する、以下の機能が含まれます。接続が行われた際、通知が行われない場合があります。お客様は、これらの機能を解除するか、または使用しないことができます。これらの機能の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=34493 をご参照ください。これらの機能を使用することで、お客様は、この情報の送信に同意されたものとします。マイクロソフトは、これらの情報を利用してお客様の特定またはお客様への連絡を行うことはありません。
b.　コンピューター情報。以下の機能はインターネット プロトコルを使用しており、お客様の IP アドレス、オペレーティング システムの種類、ブラウザーの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、ならびに本ソフトウェアをインストールしたサーバーの言語コードなどのコンピューター情報を適切なシステムに送信します。マイクロソフトは、お客様にインターネット ベースのサービスを提供するためにこ

の情報を使用します。
• Windows Update 機能。お客様は、本ソフトウェアを実行するときにサーバーに新しいハードウェアを接続することができます。サーバーには、かかるハードウェアと通信するために必要なドライバーがインストールされていない場合があります。この場合、本ソフトウェアの更新機能によって適切なドライバーをマイクロソフトから取得し、サーバーで実行することができます。お客様は、この更新機能を解除することができます。
• Web コンテンツ機能。本ソフトウェアには、関連するコンテンツをマイクロソフトから取得し、お客様に提供する機能が含まれます。これらの機能は、コンテンツを提供するために、お客様のサーバーのオペレーティング システムの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、ブラウザーの種類、ならびに本ソフトウェアを実行するサーバーの言語コードの情報をマイクロソフトに送信します。これらの機能の例としては、クリップ アート、テンプレート、オンライン トレーニング、オンライン アシスタンス、および Appshelp が挙げられます。お客様は、これらの Web コンテンツ機能を使用しないことも選択できます。
• デジタル証明書。本ソフトウェアはデジタル証明書を使用しています。これらのデジタル証明書は、X.509 標準暗号化情報を使用し、インターネット ユーザーの身元を特定します。本ソフトウェアは証明書を取得し、証明書失効リストを更新します。このセキュリティ機能は、お客様がインターネットに接続した場合にのみ作動します。
• Auto Root 更新。Auto Root 更新機能は、信頼できる証明機関のリストを更新するものです。お客様は Auto Root 更新機能を解除することができます。
• Windows Media デジタル著作権管理。コンテンツ権利者は、著作権を含む知的財産を保護する目的で、Windows Media デジタル著作権管理技術 (WMDRM) を使用しています。本ソフトウェアおよび第三者のソフトウェアは、WMDRM が保護するコンテンツを再生、複製する際に WMDRM を使用します。本ソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、コンテンツ権利者がマイクロソフトに対して、保護されたコンテンツを WMDRM で再生または複製する本ソフトウェアの機能を無効にするよう要求することがあります。無効にされた場合も、その他のコンテンツは影響を受けません。お客様は、保護されたコンテンツのライセンスをダウンロードすることでマイクロソフトがライセンスに失効リストを含めることに同意したものとします。コンテンツ権利者は、お客様がコンテンツ権利者のコンテンツにアクセスする前に、WMDRM のアップグレードを要請することがあります。WMDRM を含むマイクロソフト ソフトウェアでは、アップグレードに先立ってお客様の同意が求められます。アップグレードを行わない場合、お客様はアップグレードが必要なコンテンツにアクセスできません。お客様は、インターネットに接続する WMDRM 機能を解除することができます。この機能が解除されている場合でも、正規のライセンスを取得しているコンテンツを再生することは可能です。
• Windows Media Player。お客様が Windows Media Player を使用すると、マイクロソフトに対して以下が確認されます。
• お客様の地域において利用可能なオンライン音楽サービス
• Windows Media Player の最新バージョン
• コーデック (コンテンツの再生に必要なコーデックがサーバーにない場合)
最後の機能は解除することができます。詳細については、www.microsoft.com/windows/windowsmedia/player/11/privacy.aspx をご参照ください。
• アップグレード時における悪質なソフトウェアの削除 / 除去。本ソフトウェアのインストール前に、www.support.microsoft.com/?kbid=890830 に掲載されている特定の悪質なソフトウェア (「マルウェア」といいます) がお客様のサーバーにインストールされていないかが自動的に確認され、お客様のサーバーから削除されます。お客様のサーバーでのマルウェアの確認時に、検出されたすべてのマルウェアまたはマルウェア確認中に発生したエラーに関する報告がマイクロソフトに送信されます。この報告には、お客様を識別するための情報は一切含まれません。お客様は、本ソフトウェアのマルウェア報告機能を www.support.microsoft.com/?kbid=890830 に掲載されている手順に従って無効にすることができます。
• ネットワーク接続状況アイコン。ネットワーク トラフィックのパッシブ モニタリングまたはアクティブ DNS (または HTTP) クエリにより、システムがネットワークに接続されているかどうかが判別されます。このクエリでは、ルーティングのための標準的な TCP/IP 情報または DNS 情報の送信のみを行います。お客様は、レジストリ設定により、このアクティブ クエリ機能を解除することができます。
• Windows タイム サービス。このサービスは、time.windows.com と週に 1 回同期することで、お客様のコンピューターの時刻を正確に設定するものです。お客様は、この機能をオフにすることができます。また、優先するタイム ソースを [日付と時刻] コントロール パネル アプレットから選ぶこともできます。接続には標準の NTP プロトコルを使用します。
• IPv6 ネットワーク アドレス変換 (NAT) Traversal サービス (Teredo)。これは、既存の家庭用インターネット ゲートウェイ サーバーを IPv6 に移行させるための機能です。IPv6 は、次世代のインターネット プロトコルです。ピア ツー ピア アプリケーションで頻繁に必要となる、エンド ツー エンド接続を有効にするために役立ちます。これを実現するため、本ソフトウェアを起動するたびに、公開されている Teredo インターネット サービスの検索が Teredo クライアント サービスによって実行されます。インターネットを介してクエリを送信することでこのサービスを探します。このクエリは、標準の DNS (ドメイン ネーム サービス) 情報のみを送信してお客様のコンピューターがインターネットに接続されているかどうかを判断し、パブリック Teredo サービスを探すことができます。たとえば、お客様が以下のいずれかを行っているとします。
• IPv6 接続を必要とするアプリケーション (Windows Meeting Space など) を使用しているか、または
• 常に IPv6 接続を有効にするようにファイアウォールを構成している場合、
既定では、標準の IP (インターネット プロトコル) 情報がマイクロソフトの Teredo サービスに定期的に送信されます。それ以外の情報はマイクロソフトに送信されません。この既定の設定を変更して、マイクロソフト以外のサーバーを使用することもできます。また、"netsh" というコマンド ライン ユーティリティを使用して、この機能を無効にすることも可能です。
• Windows Rights Management Services。本ソフトウェアには、お客様の許可なく印刷、複製、第三者への送信ができないコンテンツを作成する機能が含まれています。お客様は、この機能を最初に使用する際に、マイクロソフトに接続する必要があります。また、年 1 回、この機能を更新するためマイクロソフトに再接続する必要があります。詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=52646 をご参照ください。この機能を使用しないように選択することもできます。
c. 情報の使用。マイクロソフトでは、ソフトウェアの改善およびサービスの向上を目的として、コンピューターの情報、エラー報告、およびマルウェア報告を使用します。また、ハードウェア ベンダーやソフトウェア ベンダーなど、他の企業と情報を共有する場合があります。これらの第三者は、マイクロソフト製ソフトウェアと連携して動作する自社製品の改良のため、この情報を使用することがあります。
d. インターネット ベースのサービスの不正使用。お客様は、これらのサービスに損害を及ぼす可能性のある方法、または第三者によるこれらのサービスの使用を妨げる可能性のある方法で、これらのサービスを使用することはできません。また、サービス、データ、アカウント、またはネットワークへの不正アクセスを試みるためにこれらのサービスを使用することは一切禁じられています。
7. データ ストレージ テクノロジ。本サーバー ソフトウェアには、Windows Internal Database というデータ ストレージ テクノロジが使われています。サーバー ソフトウェアのコンポーネントは、データを格納する目的でこのテクノロジを使用します。本ライセンス条項では、上記以外の方法でこのテクノロジを利用またはアクセスすることが一切禁止されています。
8. ベンチマーク テスト。本ソフトウェアは、.NET Framework のコンポーネント (以下「.NET コンポーネント」といいます) を 1 つ以上含んでいます。お客様は、これらのコンポーネントの内部ベンチマーク テストを実施することができます。お客様は、go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=66406 に掲載されている条件に従うことによって、これらのコンポーネントのベンチマーク テストの結果を開示できます。マイクロソフトと別途の合意がある場合でも、お客様が当該ベンチマーク テストの結果を開示した場合、マイクロソフトは、go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=66406 に掲載されている条件と同じ条件に従うことを条件に、該当する .NET コンポーネントと競合するお客様の製品についてマイクロソフトが実施したベンチマーク テストの結果を開示する権利を有します。
9. ライセンスの適用範囲。本ソフトウェアは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本ライセンス条項は、お客様に本ソフトウェアを使用する限定的な権利を付与します。製造業者またはインストール業者およびマイクロソフトは、その他の権利をすべて留保します。適用される法令により上記の制限を超える権利が与えられる場合を除き、お客様は本ライセンス条項で明示的に許可された方法でのみ本ソフトウェアを使用することができます。この場合、お客様は、使用方法を制限するために本ソフトウェアに組み込まれている技術的制限に従わなければなりません。詳細については、本ソフトウェア付属の文書を参照するか、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。これらの制限にかかわらず適用される法令により認められる範囲内を除き、これらの制限にかかわらず、お客様は以下を行うことはできません。
• 本ソフトウェアの技術的な制限を回避して使用すること。
• 本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること。
• 本ライセンス条項で規定されている数以上の本ソフトウェアの複製を作成すること。
• 第三者が複製できるように本ソフトウェアを公開すること。
• 本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与すること。
• 本ソフトウェアを商用ソフトウェア ホスティング サービスで使用すること。
本ライセンス条項に明示的に規定されている場合を除き、本サーバー上の本ソフトウェアにアクセスする権利は、本サーバーにアクセスするソフトウェアまたはデバイスにおいてマイクロソフトの特許またはその他の知的財産権を行使する権利を、お客様に付与するものではありません。
お客様は、リモート デスクトップなど、本ソフトウェアのリモート アクセス テクノロジを使用して、他のデバイスから本ソフトウェアにリモート アクセスすることができます。他のソフトウェアにアクセスするための当該プロトコルの使用に必要なライセンスは、お客様の責任で取得するものとします。
10. バックアップ用の複製。お客様は、本ソフトウェア メディアのバックアップ複製を 1 つ作成することができます。お客様は、バックアップを作成した同じサーバーにのみ、そのバックアップ イメージを復元できます。バックアップ用の複製は、本ソフトウェアのインスタンスを作成

する目的に限り使用することができます。
11.　　ドキュメント。お客様のコンピューターまたは内部ネットワークに有効なアクセス権を有する者は、お客様の内部使用目的に限り、ドキュメントを複製して使用することができます。
12.　　MPEG-4 規格に関する注意。本ソフトウェアには、MPEG-4 画像解読テクノロジが含まれています。このテクノロジは、映像
情報のデータ圧縮のためのフォーマットです。このテクノロジについては、MPEG LA, L.L.C. により以下の注意書きを表示することが義務付けられています。
MPEG-4 規格に準拠して本製品を使用することは、以下の場合に直接関連する場合を除き、すべて禁止されています。(A) (i) 事業活動に従事しない消費者より作成され、無償で取得されたデータまたは情報を、(ii) 個人使用の目的のみで
使用する場合、および (B) MPEG LA, L.L.C. により別途特定のライセンス許諾を受けたその他の使用による場合。
MPEG-4 規格に関してご質問がある場合は、MPEG LA, L.L.C. (所在地 : 250 Steele Street, Suite 300, Denver, Colorado 80206、Web サイト : www.mpegla.com) にご連絡ください。
13.　　VC-1 規格に関する注意。本ソフトウェアには、VC-1 画像解読テクノロジが含まれる場合があります。このテクノロジについては、MPEG LA, L.L.C. により以下の注意書きを表示することが義務付けられています。
本製品は、消費者による個人使用および非商業的使用を前提とし、「VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSES」の下、次の用途に限って使用許諾されています。(A) VC-1 規格に従ってビデオをエンコードすること (以下「VC-1 ビデオ」といいます)、または (B) 個人使用および非商業的活動に従事する消費者がエンコードした VC-1 ビデオをデコードする、あるいは、VC-1 ビデオを提供するライセンスを有するビデオ プロバイダーから取得した VC-1 ビデオをデコードすること。その他の用途については、
明示か黙示かを問わず、いかなるライセンスも許諾されません。
VC-1 規格に関してご質問がある場合は、MPEG LA, L.L.C. (所在地 : 250 Steele Street, Suite 300, Denver, Colorado 80206、Web サイト : www.mpegla.com) にご連絡ください。
14.　　完全合意。本ライセンス条項 (下記の品質保証規定を含みます)、ならびに追加ソフトウェア、更新プログラム、インターネットベースのサービス、およびサポート サービスに関する使用条件は、本ソフトウェアおよびサポート サービスについてのお客様とマイクロソフトとの間の完全なる合意です。
15.　　準拠法。
日本。お客様が本ソフトウェアを日本国内で入手された場合、本ライセンス条項は日本法に準拠するものとします。
米国。お客様が本ソフトウェアを米国内で入手された場合、抵触法にかかわらず、本ライセンス条項の解釈および契約違反への主張は、米国ワシントン州法に準拠するものとします。消費者保護法、公正取引法、および違法行為を含みますがこれに限定されない他の主張については、お客様が所在する地域の法律に準拠します。
日本および米国以外。お客様が本ソフトウェアを日本国および米国以外の国で入手された場合、本ライセンス条項は適用される地域法に準拠するものとします。
16.　　法的効力。本ライセンス条項は、特定の法的な権利を規定します。お客様は、地域や国によっては、本ライセンス条項の定めにかかわらず、本ライセンス条項と異なる権利を有する場合があります。また、お客様が本ソフトウェアを取得された第三者に関する権利を取得できる場合もあります。本ライセンス条項は、お客様の地域または国の法律がその法律に基づく権利の変更を許容しない場合、それらの権利を変更しないものとします。
17.　　本ソフトウェアのセカンダリ ブート用および復旧用の複製。
a.　　セカンダリ ブート用の複製。本サーバー ソフトウェアのセカンダリ ブート用の複製がサーバー上にインストールされている場合、お客様は、本サーバー ソフトウェアのプライマリ オペレーティング用の複製に不具合、誤動作、または破損が発生した場合のみ、プライマリ オペレーティング用の複製が修復または再インストールされるまでに限り、セカンダリ ブート用の複製にアクセスしたり、当該複製からブートしたり、当該複製を表示および実行したりすることができます。お客様は、本サーバー ソフトウェアのプライマリ オペレーティング用の複製とセカンダリ ブート用の複製の両方からブートしたり、かかる両方の複製を使用したりするようライセンス許諾されていません。
b.　　復旧用の複製。お客様は、サーバー上の本サーバー ソフトウェアを修復または再インストールすることのみを目的とし
て、復旧用の複製を使用することができます。
18.　　リースされたハードウェア。お客様が製造業者またはインストール業者からサーバーをリースしている場合、次の追加条項が適用されます。(i) お客様は、本ソフトウェアをサーバーと共に永続的に譲渡することが本ライセンス条項で別途許可されているかどうかにかかわらず、サーバーの譲渡の一部として本ソフトウェアを別のユーザーに譲渡することはできません。(ii) お客様がソフトウェア アップグレードを行う権利は、サーバーに関して締結したリース契約によって決定されます。(iii) お客様は、お客様のリース期間の終了後、製造業者またはインストール業者からサーバーを購入しない限り、本ソフトウェアを使用する
ことはできません。
19.　　レンタルの禁止。お客様は、本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与したり、本ソフトウェアを使用して商業的ホスティング サービスを提供することはできません。
20.　　製品サポート。サポート オプションについては、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。その際、サーバーと共に提供されるサポート番号をお知らせください。
21.　　バックアップ用の複製。お客様は、本ソフトウェアのバックアップ用の複製を 1 部作成することができます。バックアップ用の
複製は、お客様が本ソフトウェアを、サーバーに再インストールする場合に限り使用することができます。
22.　　ライセンス証明書 (「PROOF OF LICENSE」または「POL」)。お客様が本ソフトウェアを本サーバーにインストールされた状態、または CD-ROM またはその他のメディアで入手された場合、本ソフトウェアが正当に許諾されたものであることは、正規の Certificate of Authenticity ラベルが正規の本ソフトウェアの複製に付属されていることにより識別することができます。ラベルが有効であるためには、このラベルがサーバーに貼付、あるいは製造業者またはインストール業者の本ソフトウェア梱包に貼付または含まれていなければなりません。ラベルが本ソフトウェアの梱包とは別に提供されたものである場合、そのラベルは無効です。お客様が本ソフトウェアの使用許諾を受けていることを証明するため、ラベルをサーバーまたはパッケージに貼付したままにしてください。正規のマイクロソフト ソフトウェアを識別する方法については、www.microsoft.com/resources/howtotell/ja/default.mspx をご参照ください。
23.　　第三者への譲渡。本ソフトウェアは、サーバー、Certificate of Authenticity ラベル、および本ライセンス条項が付属している場合にのみ直接第三者に譲渡することができます。譲渡の前に、本ソフトウェアの譲受者は本ライセンス条項が本ソフトウェアの譲渡および使用に適用されることに同意しなければなりません。お客様は、バックアップ用の複製を含む本ソフトウェアの複製を保持することはできません。
24.　　非フォールト トレラント。本ソフトウェアは、フォールト トレラントではありません。製造業者またはインストール業者は、本ソフトウェアをサーバーにインストールしており、本ソフトウェアのサーバー上での動作に責任を負うものとします。
25.　　使用制限。マイクロソフト ソフトウェアは、フェール セーフ性能が不要なシステム用に設計されました。お客様は、本ソフトウェアの誤動作があった場合に人身傷害または死亡の予測できるリスクをもたらすサーバーまたはシステムで、マイクロソフト ソフトウェアを使用することはできません。これには、核施設、航空機のナビゲーションまたは通信システム、航空交通管制の操作が含まれます。
26.　　本ソフトウェアの無保証。本ソフトウェアは、現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供されます。本ソフトウェアの使用に伴うあらゆる危険は、お客様の負担とします。マイクロソフトは、明示的な瑕疵担保責任または保証責任を一切負いません。サーバーまたは本ソフトウェアに関してお客様が受けている保証は、マイクロソフトまたはその関連会社から与えられるものではなく、マイクロソフトまたはその関連会社がその保証による拘束を受けることはありません。地域の法令上許容される最大限において、製造業者、インストール業者、またはマイクロソフトは、商品性、特定目的に対する適合性、侵害の不存在に関する黙示の保証については一切責任を負いません。
27.　　責任の制限および除外。製造業者またはインストール業者が提供する払い戻しを除き、その他の損害 (派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、または付随的損害を含みますがこれらに限定されません) に関しては、製造業者、インストール業者およびマイクロソフトは一切責任を負いません。
この制限は、以下に適用されるものとします。
本ソフトウェア、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ (コードを含みます)、または第三者のプログラムに関連した事項
契約違反、保証違反、厳格責任、過失、または不法行為等の請求 (適用される法令により認められている範囲において)
また、以下のいずれかに該当する場合においても、この制限が適用されるものとします。
本ソフトウェアの修理、交換、または返金を行ってもお客様の損失が完全に補償されない場合
製造業者もしくはインストール業者またはマイクロソフトがこのような損害の可能性を認識していたか、または認識し得た場合
一部の地域では付随的、結果的損害の免責、または責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。また、一部の国では付随的、派生的、およびその他の損害の免責、または責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。
28.　　輸出規制。本ソフトウェアは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本ソフトウェアに適用されるすべての国内法および国際法 (輸出対象国、エンド ユーザーおよびエンド ユーザーによる使用に関する制限を含みます) を遵守しなければなりません。詳細については www.microsoft.com/japan/exporting をご参照ください。

【ハードウェア保証規定】

弊社のハードウェア保証は、ハードウェア保証規定（以下「本保証規定」といいます。）に明示した条件のもとにおいて、アフターサービスとして、弊社製品（以下「本製品」といいます。）の無料での修理または交換をお約束するものです。

1 保証内容

取扱説明書（本製品外箱の記載を含みます。以下同様です。）等にしたがった正常な使用状態で故障した場合、ハードウェア保証書をご提示いただく事によりそこに記載された期間内においては、無料修理または弊社の判断により同等品へ交換いたします。

2 保証対象

保証の対象となるのは弊社が提供する最新のファームウェア、またはソフトウェアを適用した本製品の本体部分のみとなります。ソフトウェア、付属品・消耗品、または本製品もしくは接続製品内に保存されたデータ等は保証の対象とはなりません。

3 保証対象外

以下の場合は保証の対象とはなりません。

1) 保証書に記載されたご購入日から保証期間が経過した場合
2) 修理ご依頼の際、ハードウェア保証書のご提示がいただけない場合
3) ハードウェア保証書の所定事項（型番、お名前、ご住所、ご購入日等〔但し、ご購入日欄については、保証期間が無期限の製品は除きます。〕）が未記入の場合または字句が書き換えられた場合
4) 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害または異常電圧等の外部的事情による故障もしくは損傷の場合
5) お買い上げ後の輸送、移動時の落下・衝撃等お取扱いが不適当なため生じた故障もしくは損傷の場合
6) 接続時の不備に起因する故障もしくは損傷、または接続している他の機器やプログラム等に起因する故障もしくは損傷の場合
7) 取扱説明書等に記載の使用方法または注意書き等に反するお取扱いに起因する故障もしくは損傷の場合
8) 合理的使用方法に反するお取扱いまたはお客様の維持・管理環境に起因する故障もしくは損傷の場合
9) 弊社以外で改造、調整、部品交換等をされた場合
10) 弊社が寿命に達したと判断した場合
11) 保証期間が無期限の製品において、初回に導入した装置以外で使用された場合
12) その他弊社が本保証内容の対象外と判断した場合

4 修理

1) 修理を弊社へご依頼される場合は、本製品とご購入日等の必要事項が記載されたハードウェア保証書を弊社へお持ち込みください。本製品を送付される場合、発送時の費用はお客様のご負担、弊社からの返送時の費用は弊社負担とさせていただきます。
2) 発送の際は輸送時の損傷を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材をご使用いただき、輸送に関する保証および輸送状況が確認できる業者のご利用をお願いいたします。弊社は、輸送中の事故に関しては責任を負いかねます。
3) 本製品がハードディスク・メモリーカード等のデータを保存する機能を有する製品である場合や本製品の内部に設定情報をもつ場合、修理の際に本製品内部のデータはすべて消去されます。弊社ではデータの内容につきましては一切の保証をいたしかねますので、重要なデータにつきましては必ず定期的にバックアップとして別の記憶媒体にデータを複製してください。
4) 弊社が修理に代えて交換を選択した場合における本製品、もしくは修理の際に交換された本製品の部品は弊社にて適宜処分いたしますので、お客様へはお返しいたしません。

5 免責

1) 本製品の故障もしくは使用によって生じた本製品または接続製品内に保存されたデータの毀損・消失等について、弊社は一切の責任を負いません。重要なデータについては、必ず、定期的にバックアップを取る等の措置を講じてください。
2) 弊社に故意または重過失のある場合を除き、本製品に関する弊社の損害賠償責任は理由のいかんを問わず製品の価格相当額を限度といたします。
3) 本製品に隠れた瑕疵があった場合は、この約款の規定に関わらず、弊社は無償にて当該瑕疵を修理し、または瑕疵のない製品または同等品に交換いたしますが、当該瑕疵に基づく損害賠償責任を負いません。

6 保証有効範囲

弊社は、日本国内のみにおいてハードウェア保証書または本保証規定に従った保証を行います。本製品の海外でのご使用につきましては、弊社はいかなる保証も致しません。　Our company provide s the service under this warranty only in Japan.

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、別段の定めの無い限り、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

HDL-ZWTCR2 シリーズ　LAN DISK 管理マニュアル　2014.04.25
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器

型　番	HDL-ZWTCR2シリーズ
保証期間	ご購入日より **36** ヶ月間有効です

販売店	
	ご購入日
	住所・店名　　　　印
	TEL.（　　　）　　　－

☆お客様	
	ふりがな お名前　　　　　様
	TEL.（　　　）　　　－
	〒□□□-□□□□ ご住所

「ハードウェア保証規定」をご確認の上、☆印の箇所に楷書で明確にご記入ください。

記入漏れがありますと、保証期間内でも無料修理が受けられませんのでご注意ください。販売店欄は販売店でご記入いただくものです。記入がない場合はお買い上げの販売店にお申し出ください。

また、本保証書は再発行いたしませんので紛失しない様大切に保管してください。

ご販売店様へ

1. お客様へ商品をお渡しする際は必ず販売日をご記入日欄に記入し貴店名／住所、貴店印をご記入ご捺印ください。
2. 記載漏れがありますと、保証期間内でも無償修理が受けられません。

取扱説明書などの注意書きに従った正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合には、ハードウェア保証規定に従った保証を行いますので、商品と本保証書をご持参ご提示の上お買い求めの販売店または、弊社（修理センター宛）にご依頼ください。

I-O DATA

株式会社アイ・オー・データ機器

進化する明日へ Continue thinking

株式会社アイ・オー・データ機器

ホームページ　http://www.iodata.jp/